

# 令和4年度 第1回立地適正化計画策定協議会

---

令和4年9月27日（火）

## 1. 立地適正化計画の概要

- (1) 立地適正化計画とは
- (2) 全国の自治体の取組状況

## 2. 検討スケジュール

## 3. コンパクトなまちづくりの必要性・基本的な方針の検討

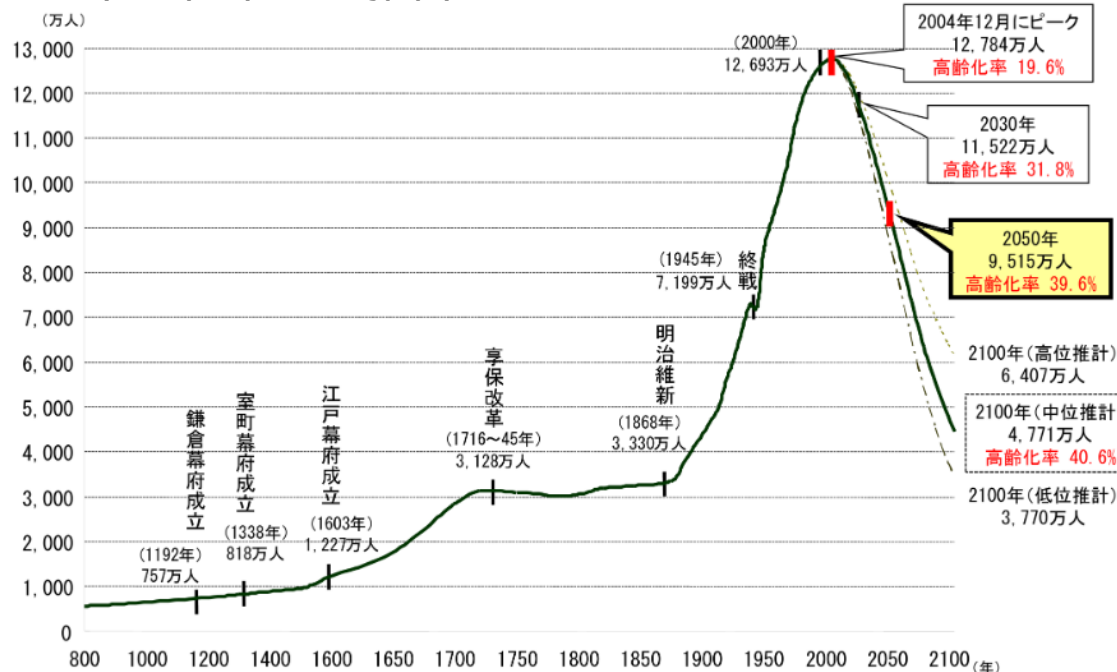
- (1) 計画の位置づけ
- (2) 関係施策等の整理
- (3) 都市が抱える課題の分析及び解決すべき課題の抽出
- (4) まちづくりの方針（ターゲット）の検討
- (5) 目指すべき都市の骨格構造の検討
- (6) 課題解決のために必要な施策・誘導方針（ストーリー）の検討

# 1. 立地適正化計画の概要

## (1) 立地適正化計画とは

- 都市再生特別措置法の一部改正（2014（平成26）年8月施行）により、市町村が策定できることとなった計画
- 人口減少や少子高齢化の更なる進行を背景に、一定の人口密度に支えられた生活サービス機能の維持による**安心で快適な生活環境の実現**と、インフラ費用の抑制等による**持続可能な都市経営の実現**を図ることが目的
- 都市全体の観点から、①居住機能の誘導、②医療・福祉などの都市機能の誘導、③公共交通の充実により「コンパクト＋ネットワーク」の都市づくりを目指したマスタープラン

■日本の将来人口推計



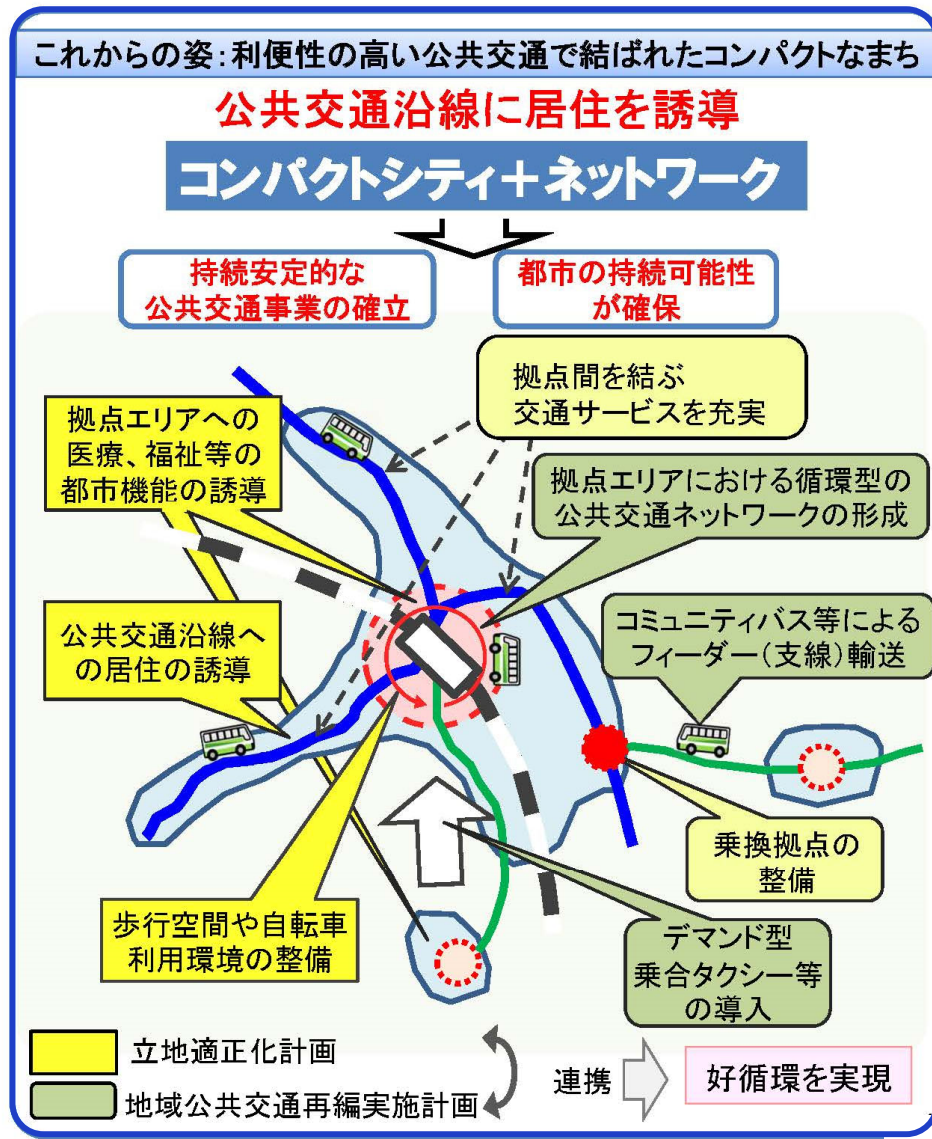
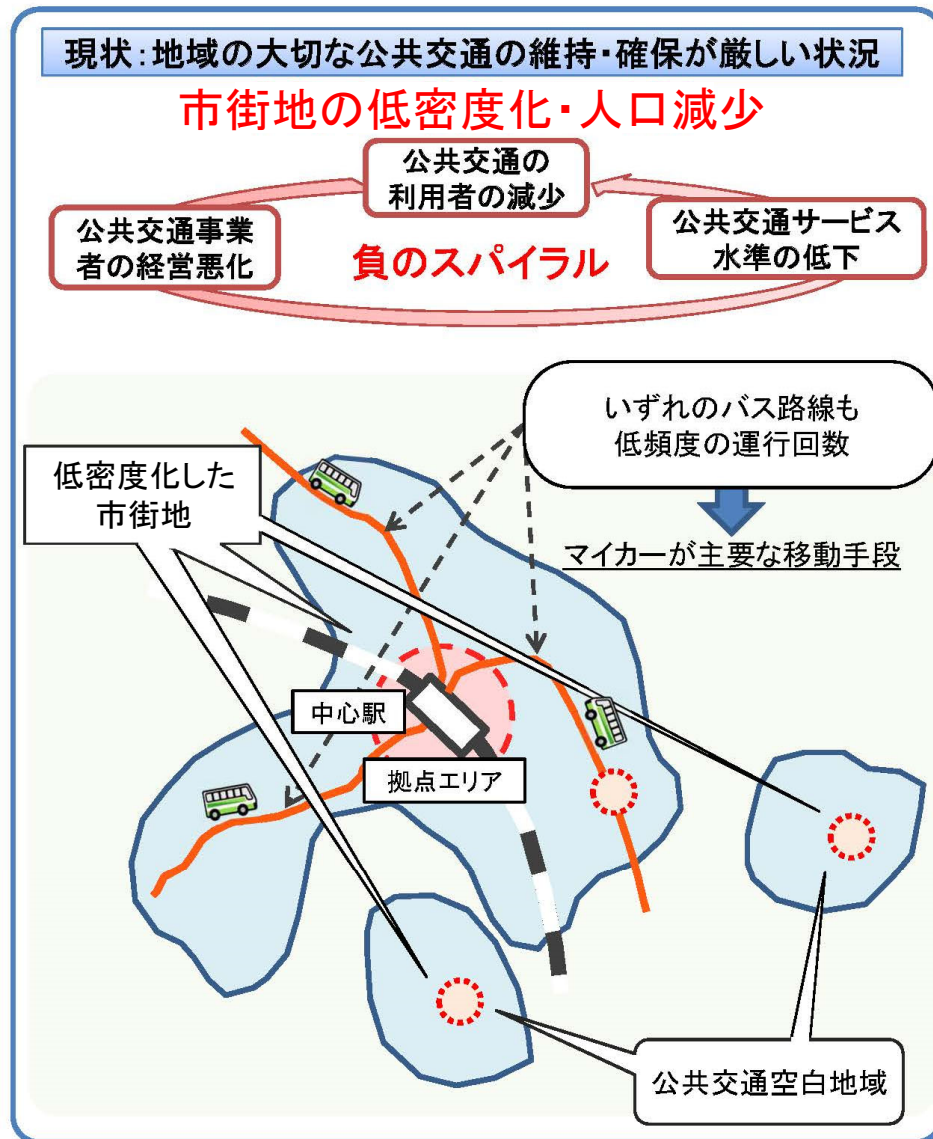
出典:「国土の長期展望」中間とりまとめ 概要(国土審議会政策部会長期展望委員会、平成23年2月21日)

# (1) 立地適正化計画とは

■人口減少や少子高齢化、市街地の低密度化によって将来起こりうること(例:公共交通)

このままいくと…

対策することで…



参考:「国土の長期展望」中間とりまとめ 概要(国土審議会政策部会長期展望委員会、平成23年2月21日)に基づき作成

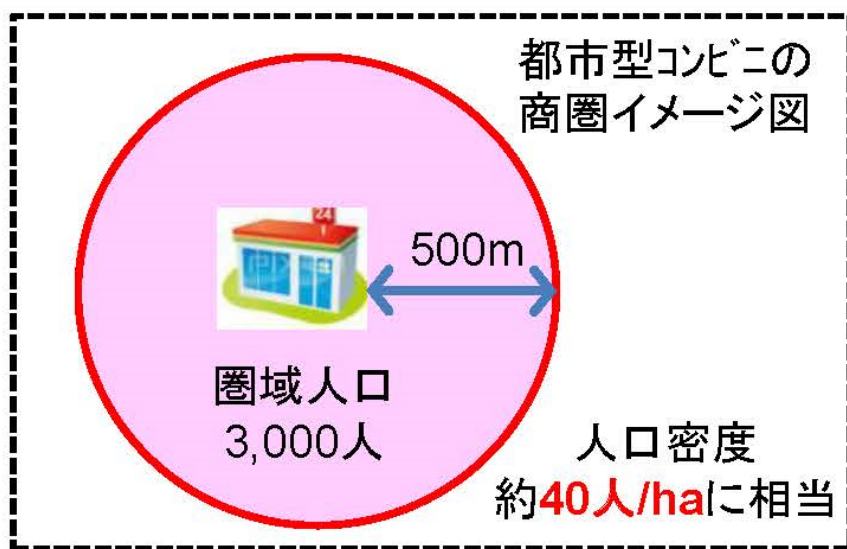
# (1) 立地適正化計画とは

■人口減少や少子高齢化、市街地の低密度化によって将来起こりうること(例:生活サービス施設)

例) コンビニエンスストアの場合、商圈距離: 500m  
商圈人口: 3,000人 と言われている。

⇒これを人口密度に換算すると、約40人/ha

出典:すぐ応用できる商圈と売上高予測(市原実著、同友館)



出典:立地適正化計画の作成状況等について(国土交通省)

- 人口減少、市街地の低密度化によって商圈人口を保てなくなれば、サービスの維持が困難となる。
- 生活サービス施設が撤退してしまえば、日常生活を営むことが困難となる。

⇒将来的に持続可能なまちを実現するために、まとまったエリアにサービス機能と人口密度を維持し、公共交通でつなぐような都市構造を目指す

# (1) 立地適正化計画とは

■人口減少や少子高齢化、市街地の低密度化によって将来起こりうること(例:市民生活)

例えば、今のままだとこの先…

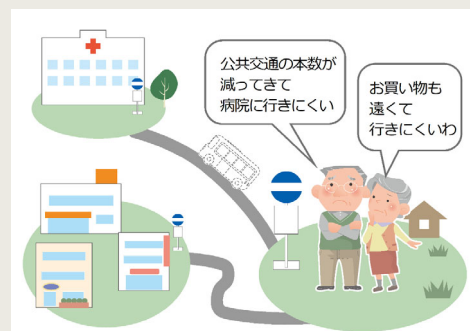
人口減少による地域活力の低下や空家・空き地の増加による住環境の悪化が懸念されます。



身近な商業施設の閉店など、施設の減少等による生活利便性の低下が懸念されます。

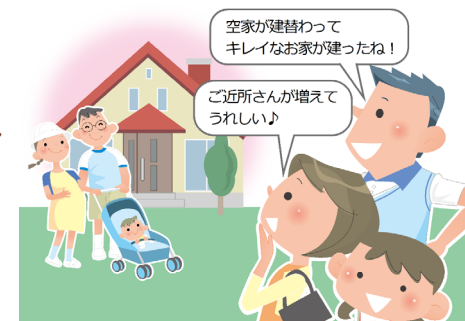


人口減少に伴う利用者減少により、交通不便地域が拡大するなど市民の外出機会が確保されず、地域の交流や賑わいの喪失が懸念されます。



立地適正化計画を推進することで、  
将来のまちの姿は…

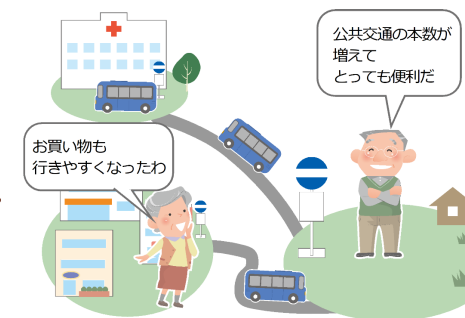
- 空き地や低未利用地の有効活用による住環境の改善等



- 地域特性を生かした都市機能の誘導と地域間の連携による生活利便性の維持・向上
- にぎわいを創出する憩いの空間の創出 等



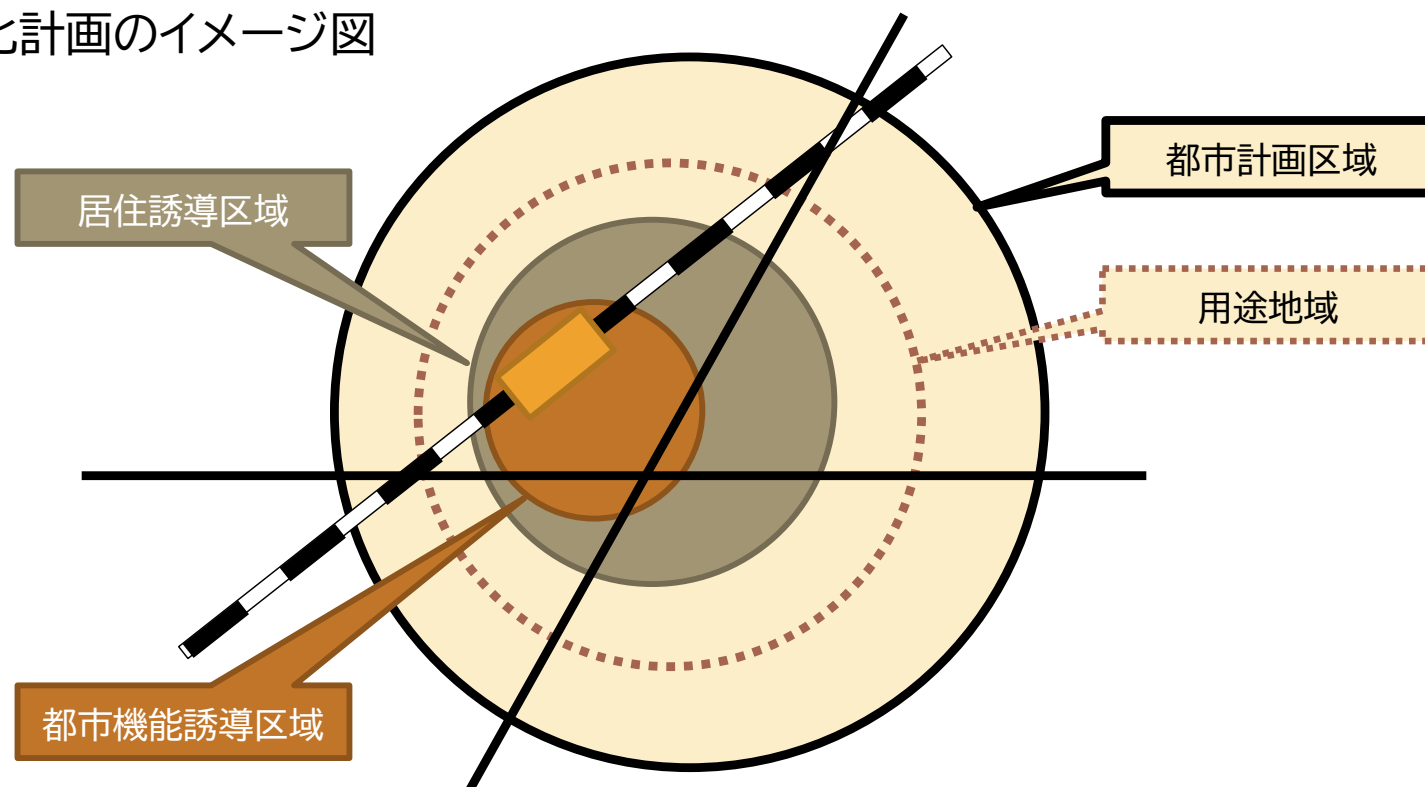
- 生活サービスを享受しやすい公共交通ネットワークの構築
- 市民や来街者の交流を促進するための交通ネットワークの形成 等



# (1) 立地適正化計画とは

- **都市計画区域内**を基本として、**居住誘導区域**と**都市機能誘導区域**を定める。
- 「**都市機能誘導区域**」と区域内に誘導する「**誘導施設**」を定めることで、区域外における誘導施設の建築等が事前届出・勧告の対象となる。区域内へ誘導を図るための支援措置等を計画に記載できる。
- 「**居住誘導区域**」を定めることで、区域外における一定規模以上の住宅等の建築等が事前届出・勧告の対象となる。区域内の居住環境の向上、公共交通の確保等の居住の誘導に資する支援措置を計画に記載できる。

■立地適正化計画のイメージ図



# (1) 立地適正化計画とは

## コンパクトなまちづくりをめぐる誤解

### 一極集中

郊外を切り捨て、市の最も主要な拠点(ターミナル駅周辺等)1か所に、すべてを集約させる

### 多極型の都市構造

都市拠点だけでなく、旧町村の役場周辺などの地域拠点も含めた、多極ネットワーク型のコンパクト化を目指す

### 全ての人口の集約

全ての居住者(住宅)を一定のエリアに集約させることを目指す

### 全ての人口の集約を図るものではない

例えば農業従事者が農村部に居住することは当然(集約で一定エリアの人口密度を維持)

### 強制的な集約

居住者や住宅を強制的に短期間で移転させる

### 誘導による集約

インセンティブを講じながら、時間をかけて居住の集約化を推進

### 地価水準の格差を生む

居住等を集約する区域の内外で地価水準が大きく分かれ、格差が生じる

### 急激な地価変動は生じない

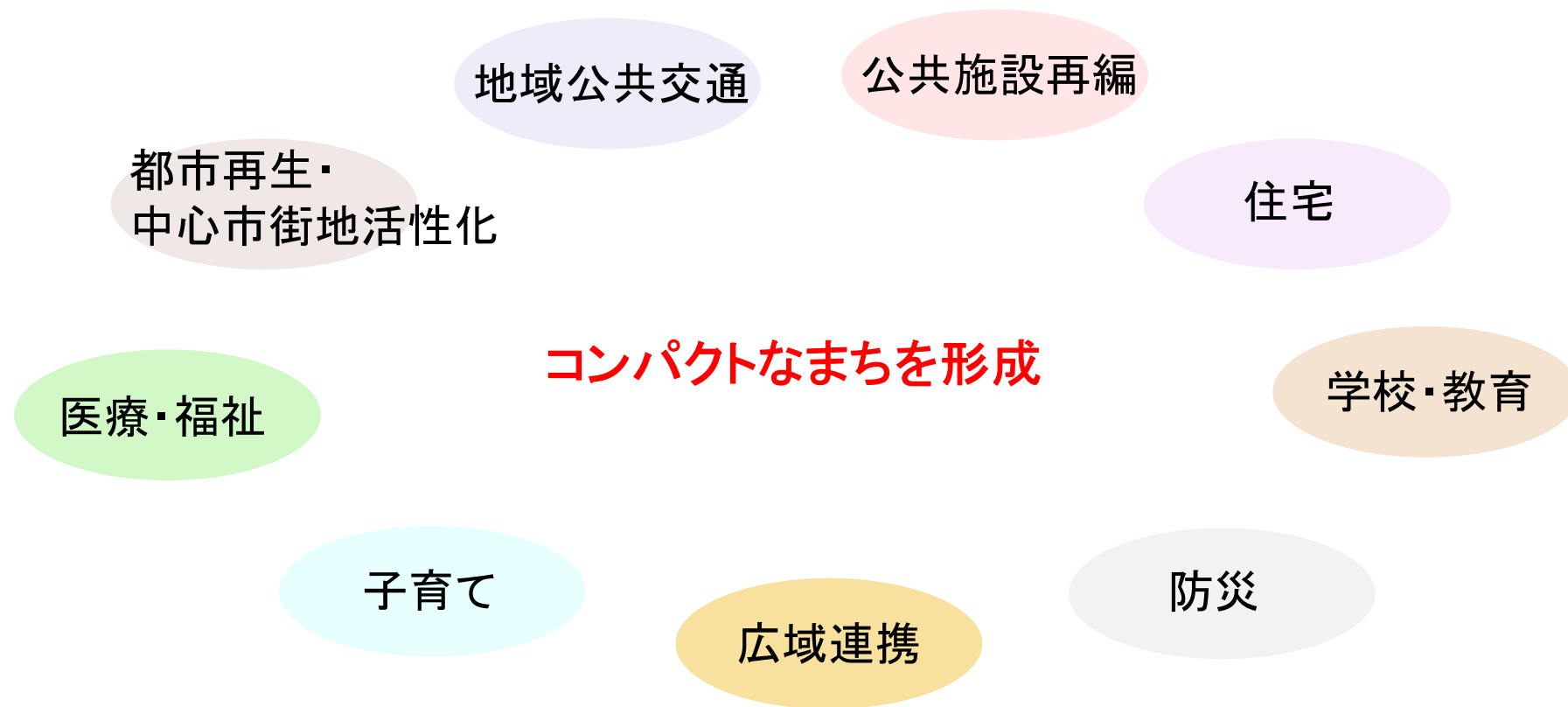
・誘導策による中長期的な取組であり、急激な地価変動は見込まれない  
・まちなかの地価の維持・上昇に加え、都市全体の地価水準の底上げ等の波及効果を期待



# (1) 立地適正化計画とは

- コンパクトなまちづくりの推進にあたっては、まちづくりと密接に関係する**様々な施策と連携し、整合性や相乗効果等を考慮しつつ、総合的な取組**として進めていくことが重要⇒庁内各課の協力が必要

## ■施策連携イメージ(誘導区域内)



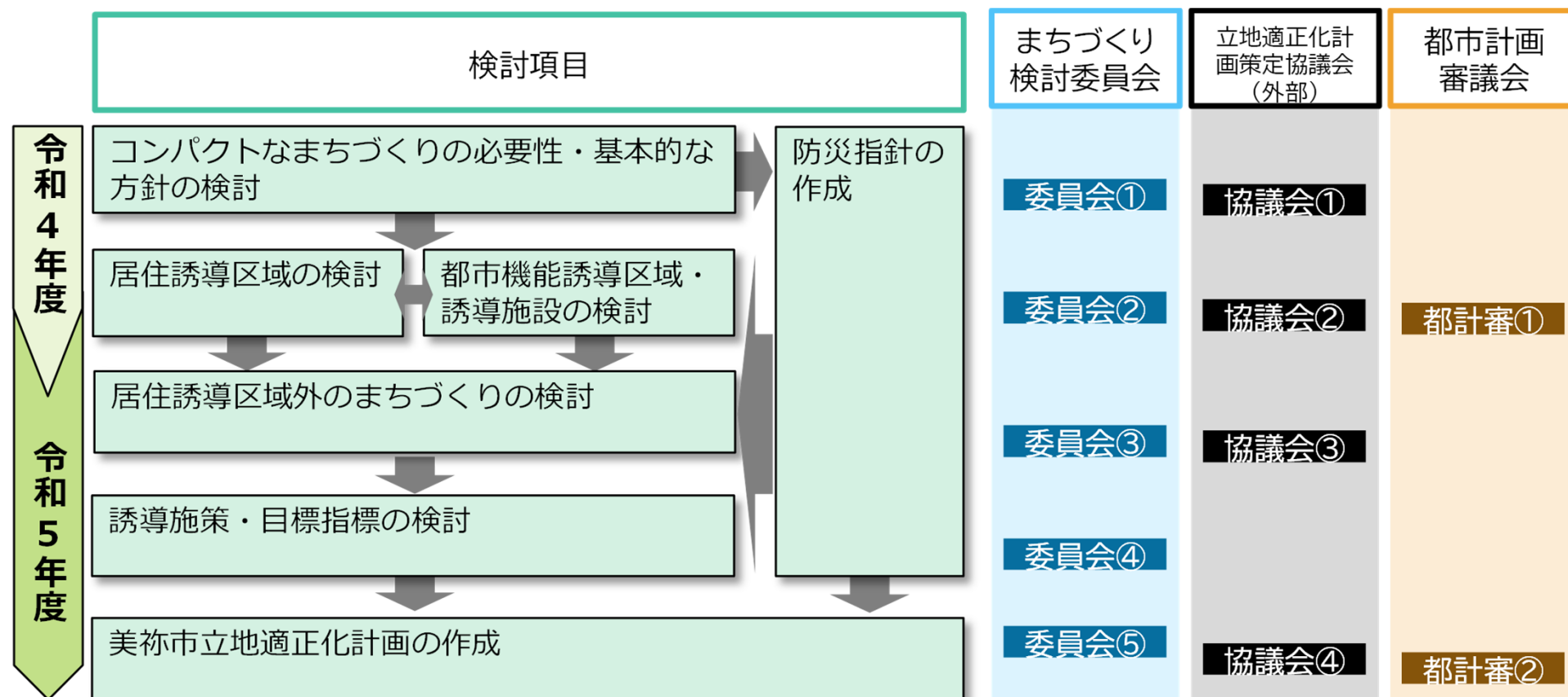
参考:立地適正化計画の作成状況等について(国土交通省)に基づき作成



## 2. 検討スケジュール

- 令和4年度、令和5年度の2か年で検討。
- 本年度は、①コンパクトなまちづくりの必要性・基本的な方針の検討、②居住誘導区域の検討、③都市機能誘導区域・誘導施設の検討、④防災指針の作成に係る検討を実施。
- 検討はまちづくり検討委員会、外部委員により構成される立地適正化計画策定協議会及び都市計画審議会において行う。

### ■検討スケジュール



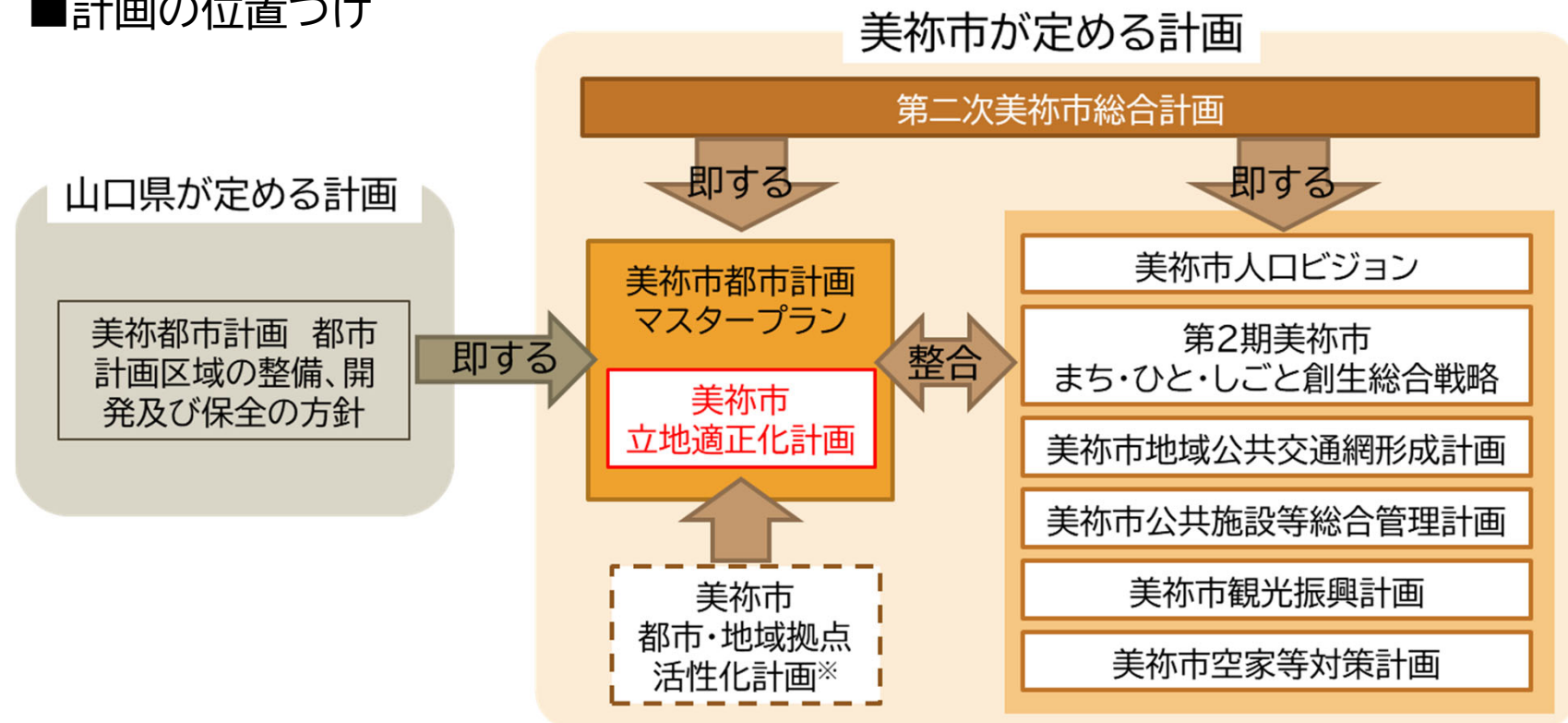
### 3. コンパクトなまちづくりの必要性・基本的な方針の検討

#### (1) 計画の位置づけ

- 本計画は、都市全体を見渡したマスタープランであり、なおかつ達成状況を評価し、状況に合わせて都市計画や誘導区域の見直しを行うアクションプランとして運用するものでもあることから、本計画を包含する「美祢市都市計画マスタープラン」との整合を図る。

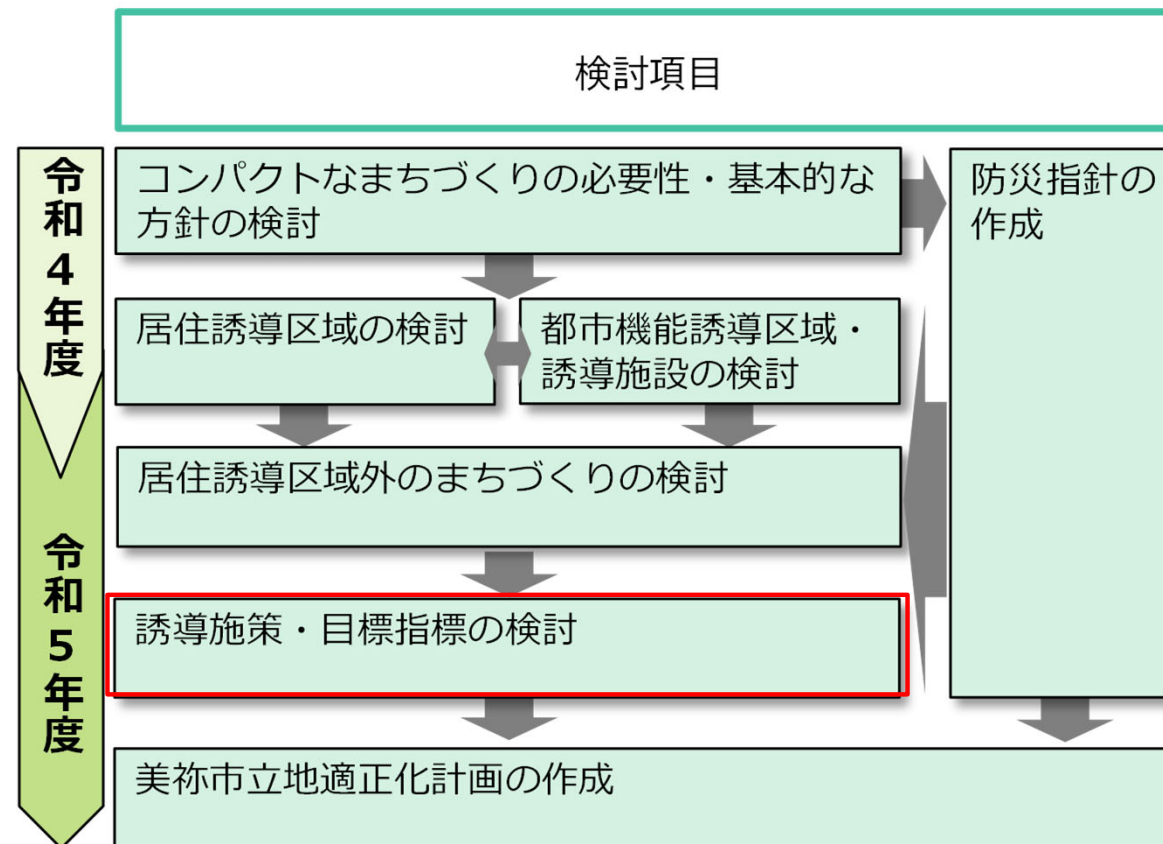
※本計画に先立ち、令和元年度に都市計画マスタープランに基づき、都市拠点と地域拠点における都市機能の集積とネットワークでの連携に関する「美祢市都市・地域拠点活性化計画」を策定しており、「美祢市都市・地域拠点活性化計画」の内容も踏まえつつ本計画の検討を進める。

#### ■ 計画の位置づけ



## (2) 関係施策等の整理

- 本計画では、区域の設定、誘導施設の設定を行った上で、「誘導施策＝居住・施設の誘導や交通ネットワークの強化を進めるために講じる施策」を設定。
- 誘導施策は現在本市で取り組んでいる事業・施策とその推進状況を踏まえた上で検討。



### (3) 都市が抱える課題の分析及び解決すべき課題の抽出

#### ① 本市の現状分析

- 1) 地勢
- 2) 人口動向
- 3) 土地利用動向
- 4) 交通動向
- 5) 経済動向
- 6) 財政動向
- 7) 地価動向
- 8) 災害動向
- 9) 都市施設動向

#### ② 将来見通しにおける都市が抱える課題の分析

- 1) 人口見通しに関する分析
- 2) 生活サービス施設の利便性・持続可能性
- 3) 公共交通の利便性・持続可能性
- 4) 災害に対する安全性

#### ③ 解決すべき課題の抽出

# ①美祢市の現状分析

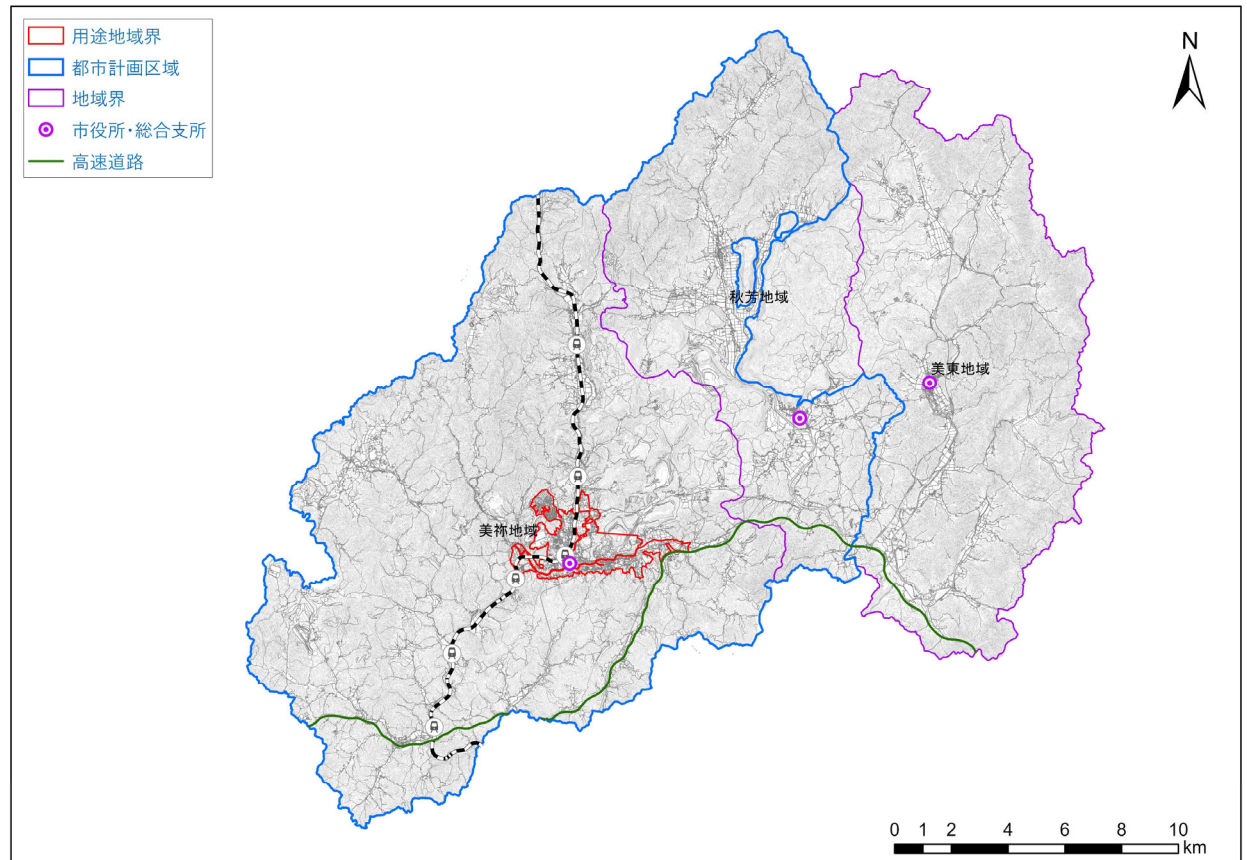
## 1) 地勢

- 美祢市は、山口県の西部のほぼ中央に位置し、面積472.64 km<sup>2</sup>で、西は下関市、北は長門市、萩市、東は山口市、南は宇部市、山陽小野田市に接している。
- 北側と東側は中国山地にかかり標高が高くなっている。秋芳地域には日本最大級のカルスト台地「秋吉台」と大鍾乳洞「秋芳洞」を有している。
- 平成20年3月21日に美祢市、秋芳町、美東町の1市2町が合併し、現在の美祢市が誕生。

### ■各地域の特徴

### ■都市計画区域

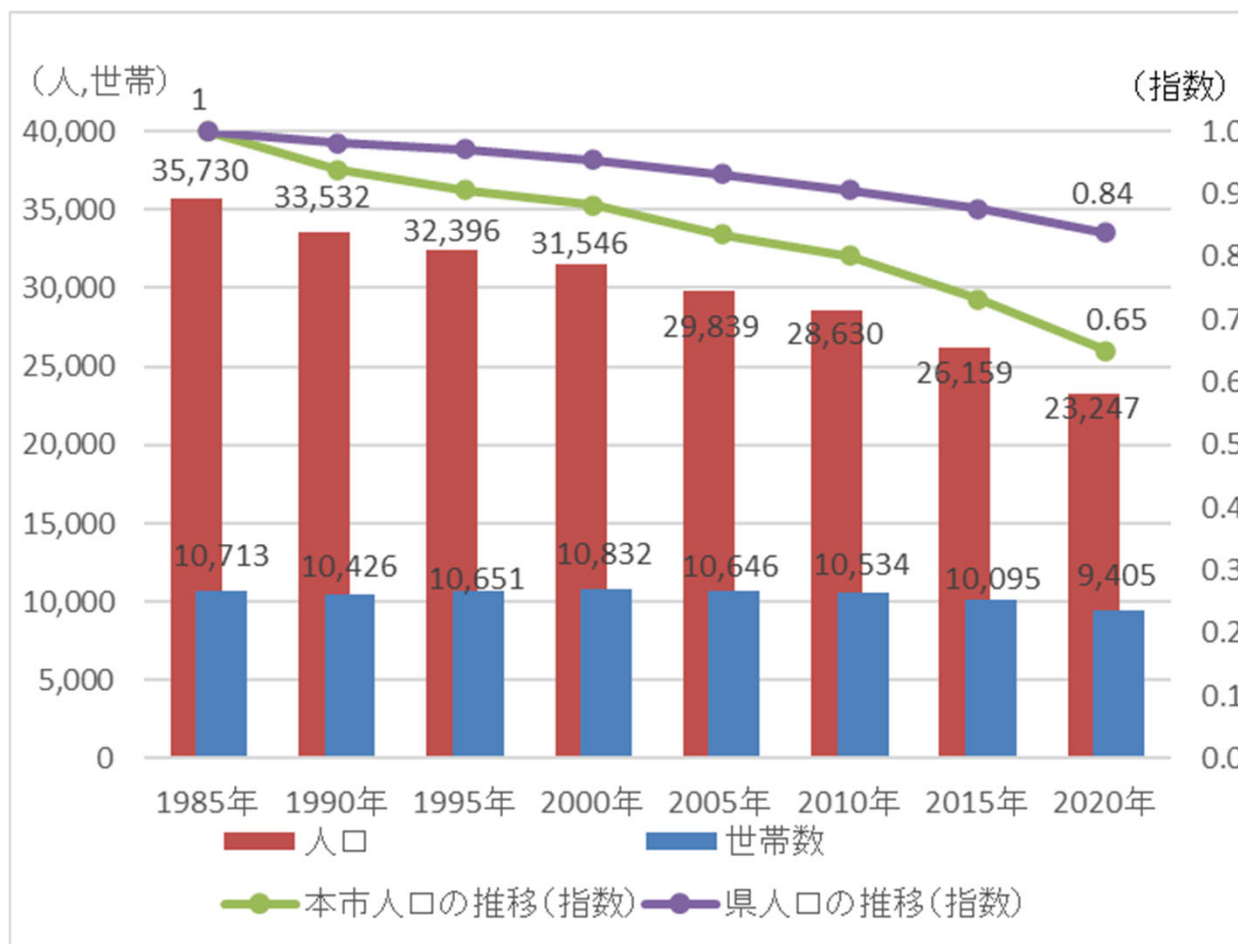
地域名	特徴
美祢地域	市の中心的な市街地を形成する地域
秋芳地域	日本最大級のカルスト台地である秋吉台を有し、農業と観光を基幹産業とする地域
美東地域	農業を中心とする地域



## 2) 人口動向 人口と世帯数

- 本市の人口は減少傾向にある。1985年から2020年における人口の推移を見ると、山口県より本市の方が減少率大きい。
- 一方、世帯数は1985年以降、微減を続け、2020年には9,405世帯となっている。

■人口と世帯数の推移(1985年を1.00とした割合)

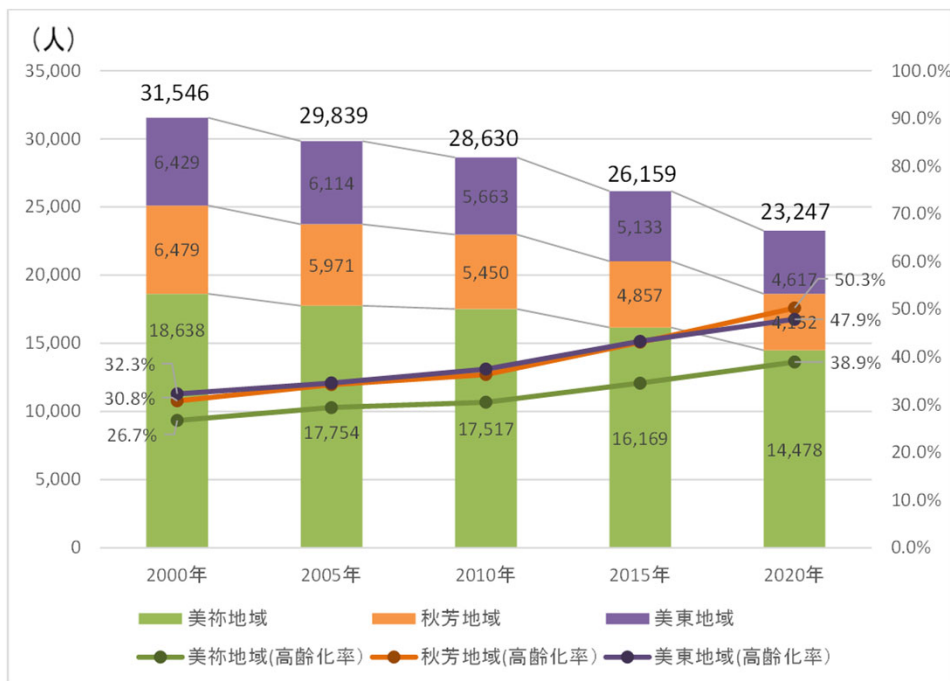




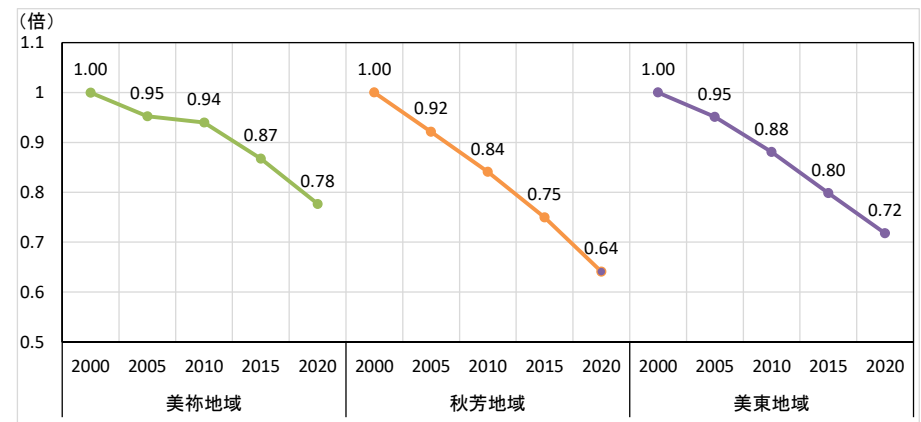
## 2) 人口動向 地域別人口と高齢化

- 本市の人口は全地域（美祢地域、秋芳地域、美東地域）で減少傾向にある。
- 全地域の高齢化率が約40%を超えており、秋芳地域は50%を超えている。特に、秋芳地域の2000年から2020年における人口の推移を見ると36%減少しており、急速に人口が減少している。
- 人口減少・世帯数微減により1世帯当たりの人員が減少し、少子高齢化が進行していることから、今後高齢者夫婦世帯や高齢者単身世帯が増加していくと予想される。

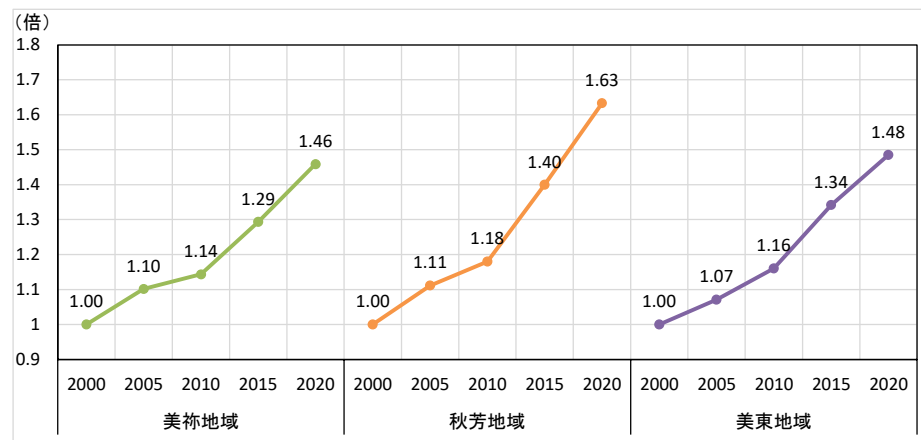
### ■地域別人口・高齢化の推移



### ▼地域別人口の推移(2000年を1.00とした割合)



### ▼地域別高齢化の推移(2000年を1.00とした割合)



# 3) 土地利用動向 土地利用構成

- 本市の都市計画区域内の土地利用を見ると、山林が75.3%を占め、農地（田畑）が12.8%、宅地が4.2%を占める。自然的土地利用（山林、農地等）が91.1%で大部分を占める。
- 用途地域は、都市計画区域の2.5%を占め、うち都市的土地利用が65.8%を占める。
- 用途地域外は、都市計画区域の97.5%を占め、うち自然的土地利用が92.6%を占める。

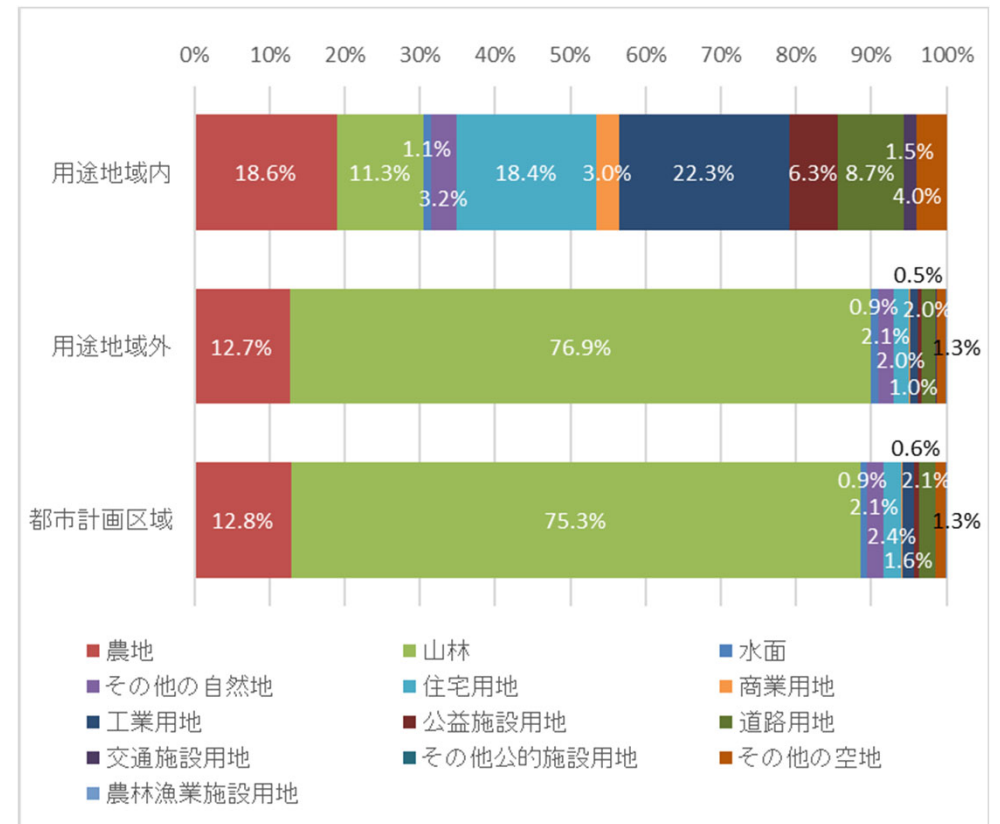
データ更新予定

## ■ 区域別の土地利用面積

(単位: ha、%)

	自然的土地利用					
	農地	山林	水面	その他の自然地	小計	
用途地域	149.8	90.6	8.9	25.9	275.2	
用途地域外	3,990.9	24,224.6	281.4	654.9	29,151.7	
都市計画区域	4,140.6	24,315.2	290.2	680.8	29,426.9	
	都市的土地利用					
	住宅用地	商業用地	工業用地	農林漁業施設用地	公益施設用地	道路用地
用途地域	147.8	24.1	179.0	0.0	50.9	69.7
用途地域外	625.0	51.5	323.6	12.2	142.4	618.1
都市計画区域	772.9	75.6	502.6	12.2	193.2	687.8
	都市的土地利用					計
	交通施設用地	公共空地	その他公的施設用地	その他空地	小計	
用途地域	12.3	13.1	0.0	31.9	528.8	804.0
用途地域外	29.2	133.7	0.0	399.7	2,335.5	31,487.2
都市計画区域	41.5	146.9	0.0	431.5	2,864.3	32,291.2

## ■ 区域別の土地利用構成割合



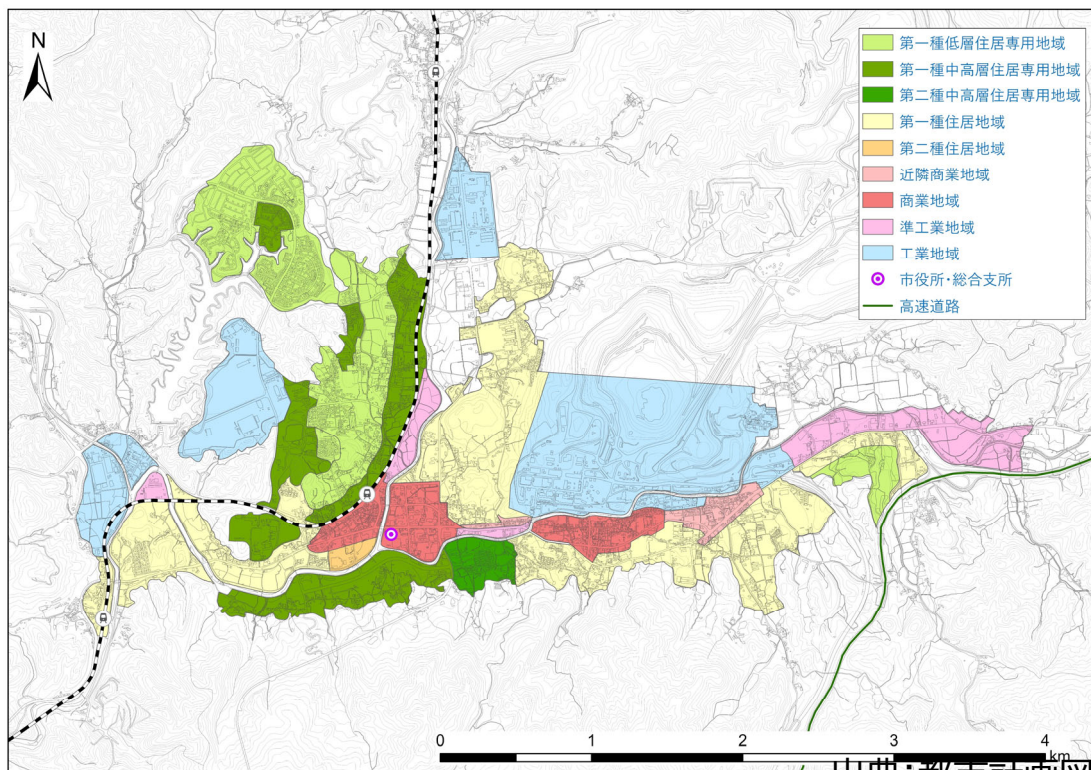
# 3) 土地利用動向 都市計画の状況

- 本市の都市計画区域は、美祢地域、秋芳地域の2地域に指定されており、面積は32,595haで、行政区域面積の約69.0%を占める。
- 用途地域は美祢地域に指定されており、面積は804haで、都市計画区域面積の約2.5%にあたる。

- 本市の人口を区域別に見ると、全体的に減少傾向にある。
- 都市計画区域外の人口減少が最も大きく2000年から2015年までの間に20.9%減少している。
- 用途地域内の人口減少が最も小さく、2000年から2015年までの間に6.1%の減少している。

データ更新予定

## ■用途地域図

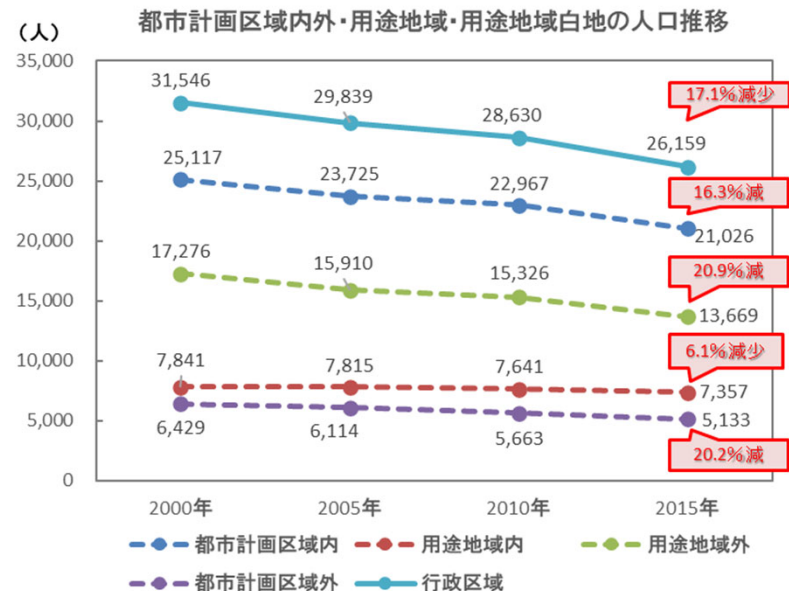


出典：都市計画図

## ■区域別の人口の推移

(単位：人)

区域	2000年	2005年	2010年	2015年
行政区域	31,546	29,839	28,630	26,159
都市計画区域内	25,117	23,725	22,967	21,026
用途地域内	7,841	7,815	7,641	7,357
用途地域外	17,276	15,910	15,326	13,669
都市計画区域外	6,429	6,114	5,663	5,133



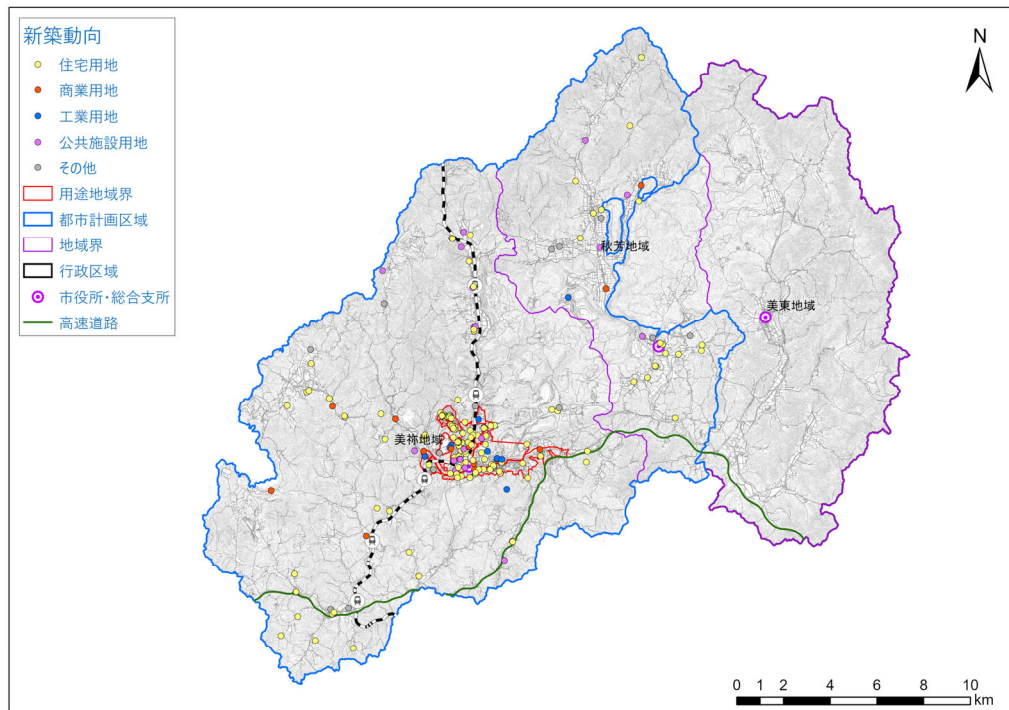
出典：都市計画基礎調査(2017年度)

# 3) 土地利用動向 新築動向・農地転用

- 本市の新築動向をみると、全体で2012年から2016年の間で237件、265,040.3㎡となっている。
- 用途地域内では住宅用地における新築が最も多く、95件、10,078.1㎡である。

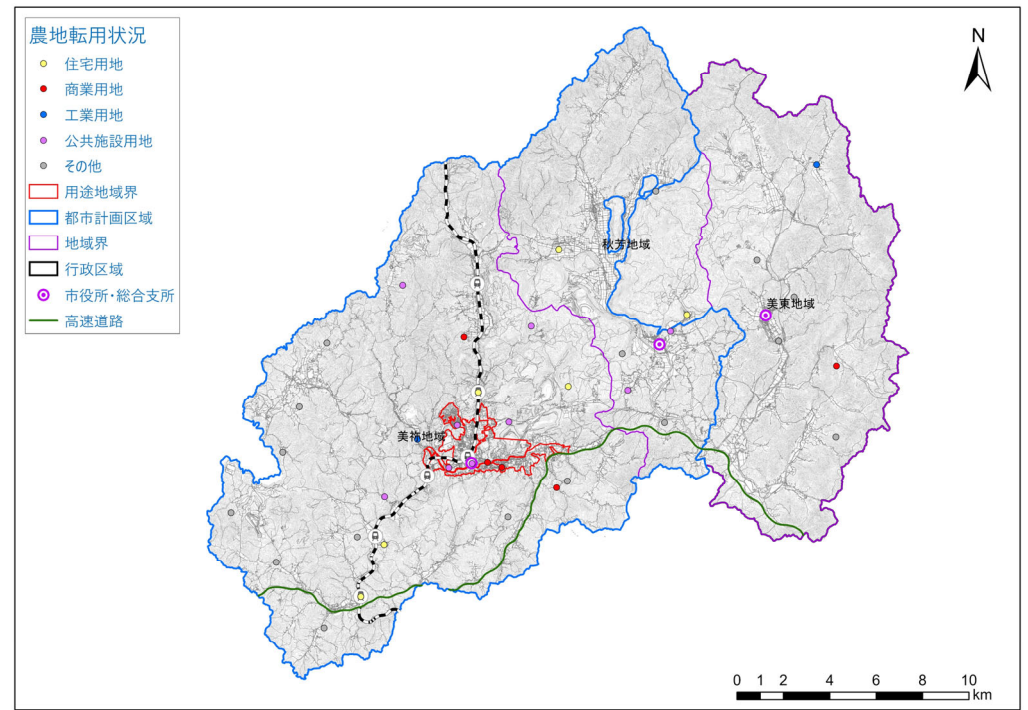
- 2017年から2021年まで5年間の農地転用は、214件、面積223,357㎡であった。
- 地域別に見ると、美祢地域が149件で最も多く、次いで美東地域40件、秋芳地域25件の順に多い。

■新築動向図(2012～2016年) データ更新予定



出典:都市計画基礎調査(2017年度)

■農地転用の状況(2017～2021年)



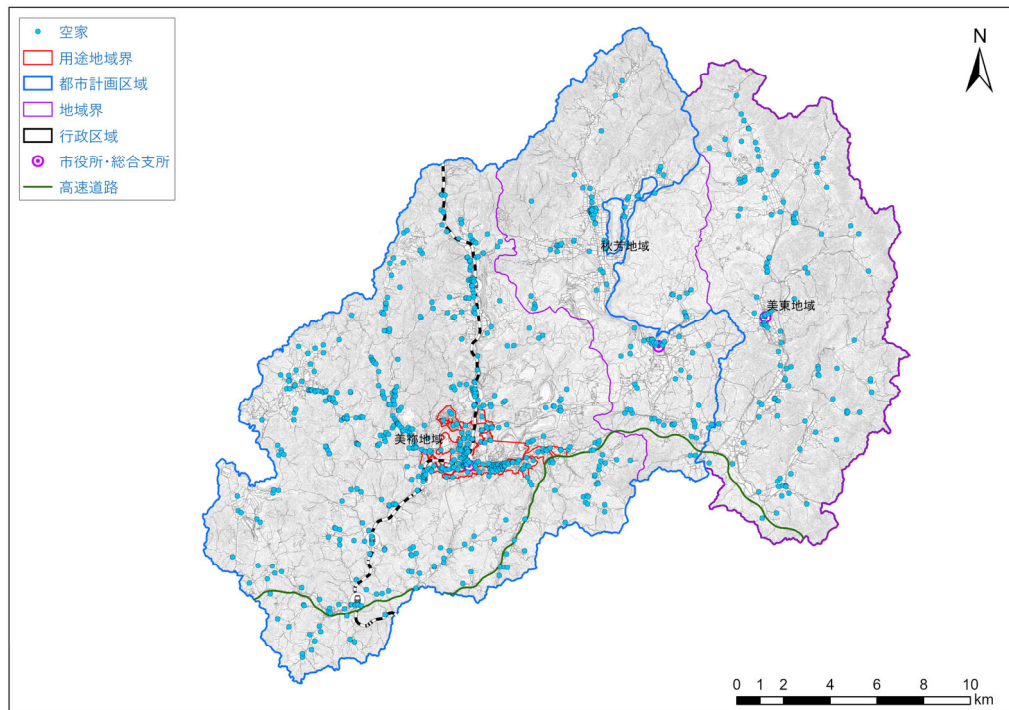
出典:美祢市資料

# 3) 土地利用動向 空家・低未利用地

- 本市の空家は1,337件存在。
- 空家数は美祢地域に最も多く分布しており、用途地域内でも多数の空家が見られる。

- 本市の低未利用地の状況を見ると、都市計画区域内に広く分布している。
- 美祢地域の用途地域内（来福台地区）に多く分布している。

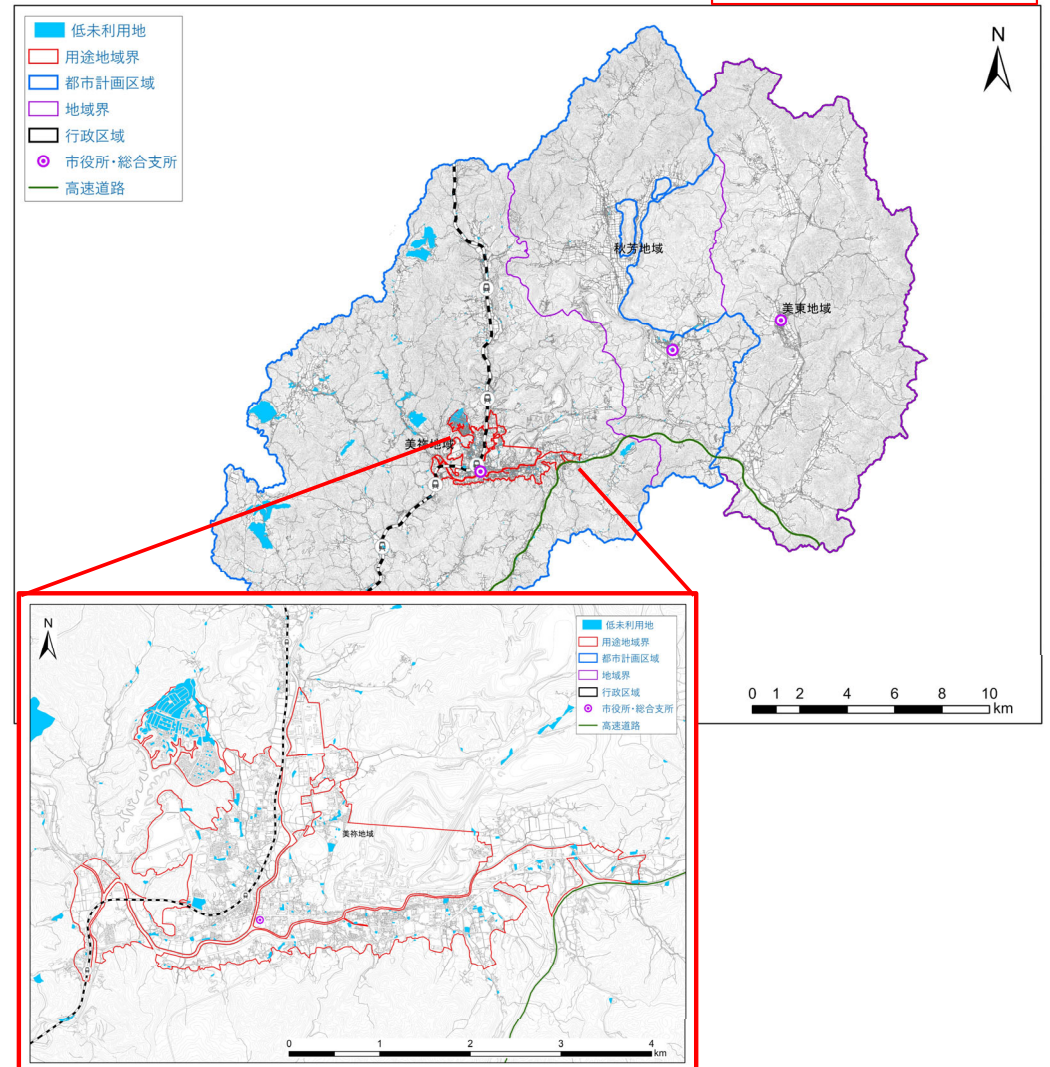
## ■ 空家状況図



出典：空家等実態調査(2017年度)

## ■ 低未利用地の状況

データ更新予定



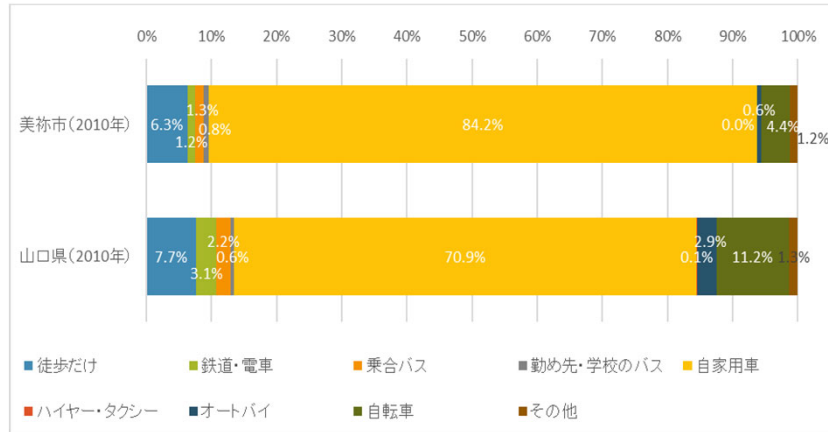
出典：都市計画基礎調査(2017年度) 21

# 4) 交通動向 利用交通手段・公共交通

- 本市の2010年における利用交通手段を山口県と比較すると、本市では自家用車の割合が高い。
- 鉄道は1.2%、乗合バスは1.3%であり、公共交通の利用割合は低い。

## ■利用交通手段の分担率

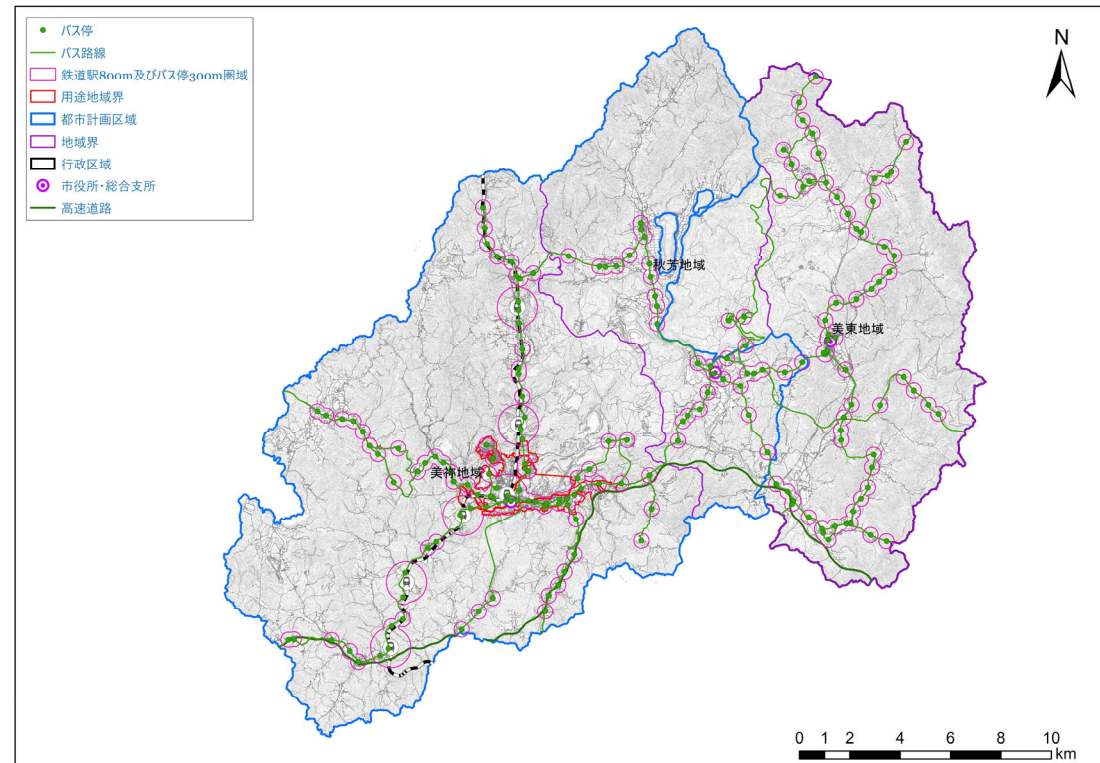
データ更新予定



出典:国勢調査(2010年)

- 本市はJR美祢線が運行しており、本市内に6箇所の駅が立地している
- 路線バスは、船木鉄道（株）、サンデン交通（株）、ブルーライン交通（株）、防長交通（株）、宇部市交通局、中国JRバス（株）の6事業者が運行している。
- 予約型乗合タクシーのミニバスは、美祢地域で4地区、秋芳地域で2地区、美東地域で2地区運行している。

## ■バス路線・鉄道網図

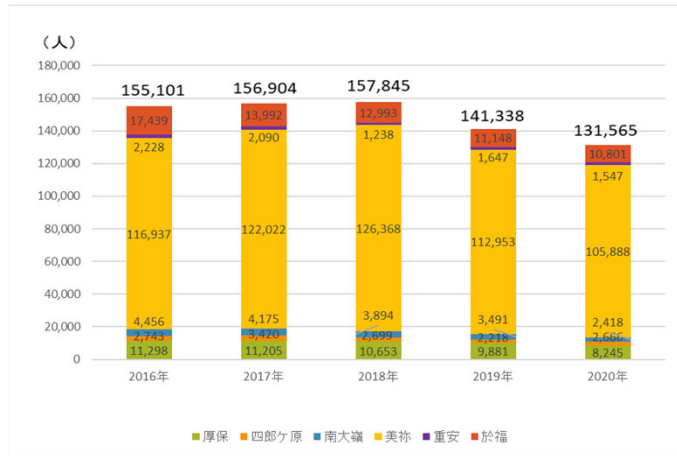


出典:美祢市地域公共交通網形成計画改訂版(2018年3月)

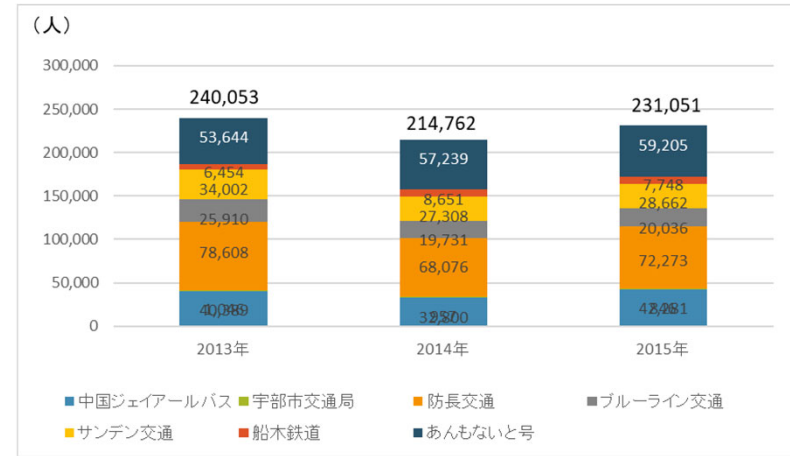
# 4) 交通動向 公共交通利用者数の状況

- 駅利用者数は、微減傾向である。2016年から2020年における駅利用者数の推移を見ると、南大嶺駅の利用者減少が最も多く、次いで、於福駅、重安駅となっている。
- 路線バス利用者数は、微減傾向である。2013年から2015年における路線バス利用者数の推移を見ると、中国ジェイアールバス、船木鉄道、あんもないと号において利用者数の増加がみられる。

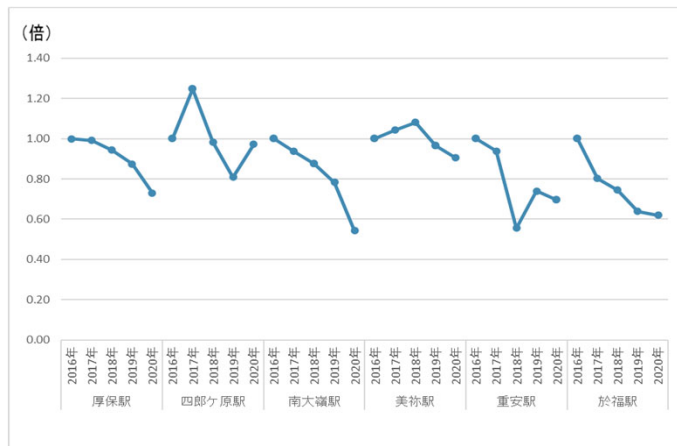
## ■ 駅利用者数



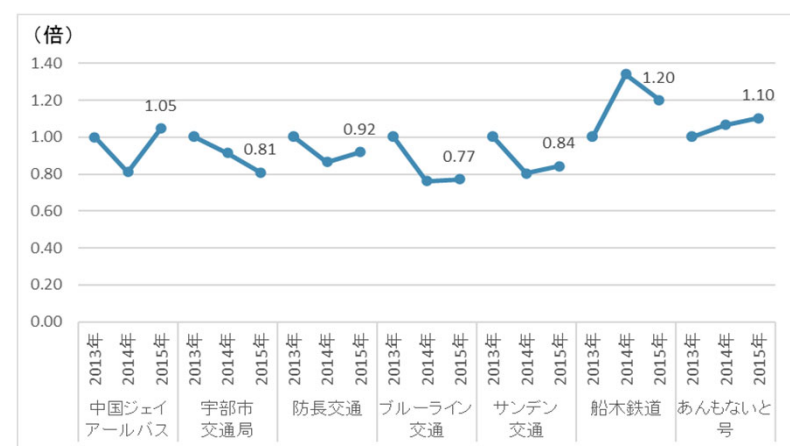
## ■ 路線バス利用者数



### ▼ 駅利用者数の推移(2016年を1.00とした割合)



### ▼ 路線バス利用者数の推移(2013年を1.00とした割合)

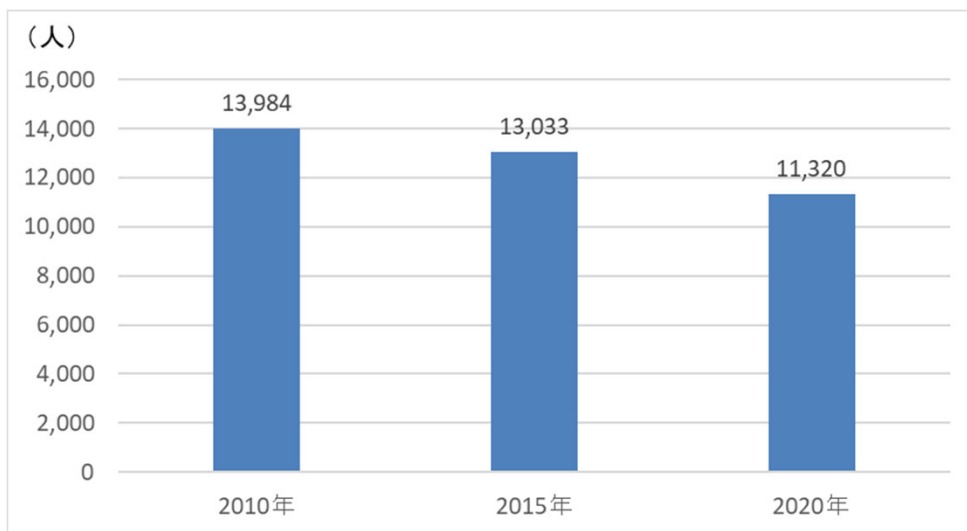


# 5) 経済動向 産業分類別就業者数の状況

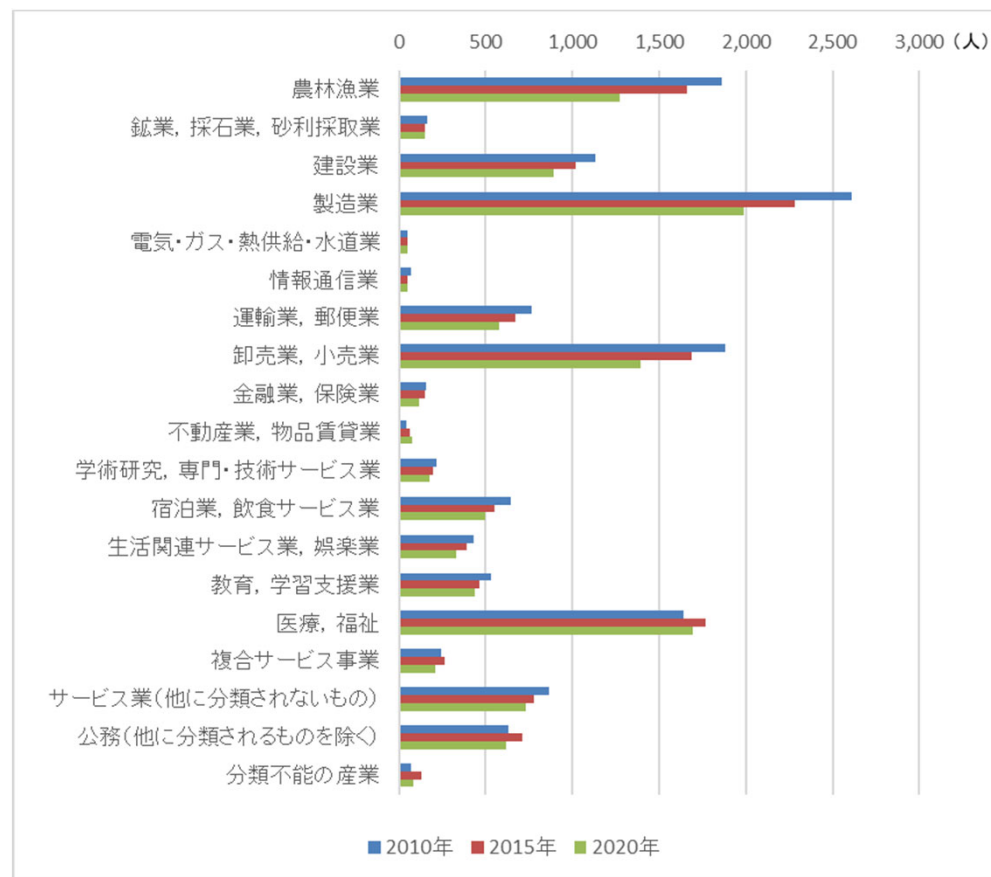
- 本市の産業別従業者数をみると、年々減少している。
- 農林漁業、製造業、卸売業・小売業とともに医療・福祉業の従事者が多い。
- 2010年から2020年の主な動向をみると、農林漁業の従業者数が減少しており、次いで金融業・保険業の従業者数が減少している。一方、不動産・物品賃貸業、医療・福祉の従業者数は増加している。

## ■従業員数の推移

	就業者数 (人)	増減率
2010年	13,984	1.00
2015年	13,033	0.93
2020年	11,320	0.81



## ■産業別従業員数の推移

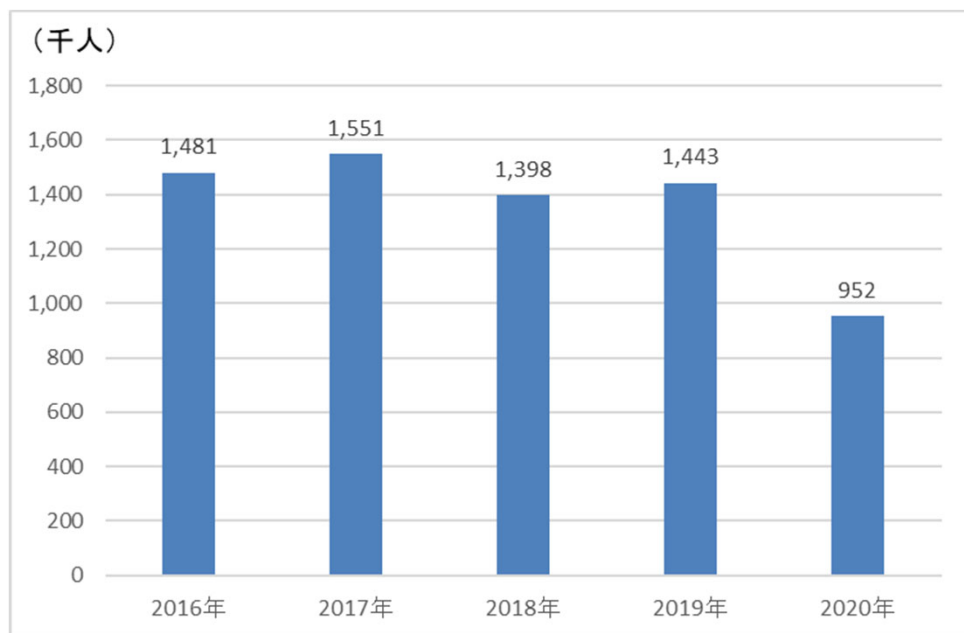




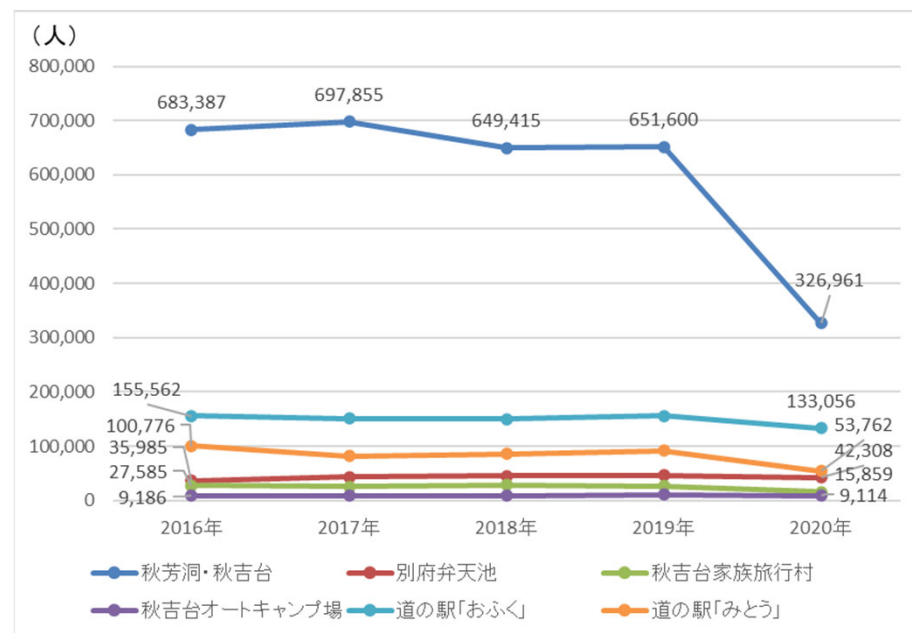
# 5) 経済動向 観光客数の状況

- 本市の観光客数をみると、2016年から2019年にかけて概ね横ばいであったものの、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い減少している。
- 観光地別観光客数をみると、秋芳洞・秋吉台が最も観光客数が多く、次いで道の駅「おふく」となっている。

### ■観光客数の推移



### ■観光地別観光客数の推移

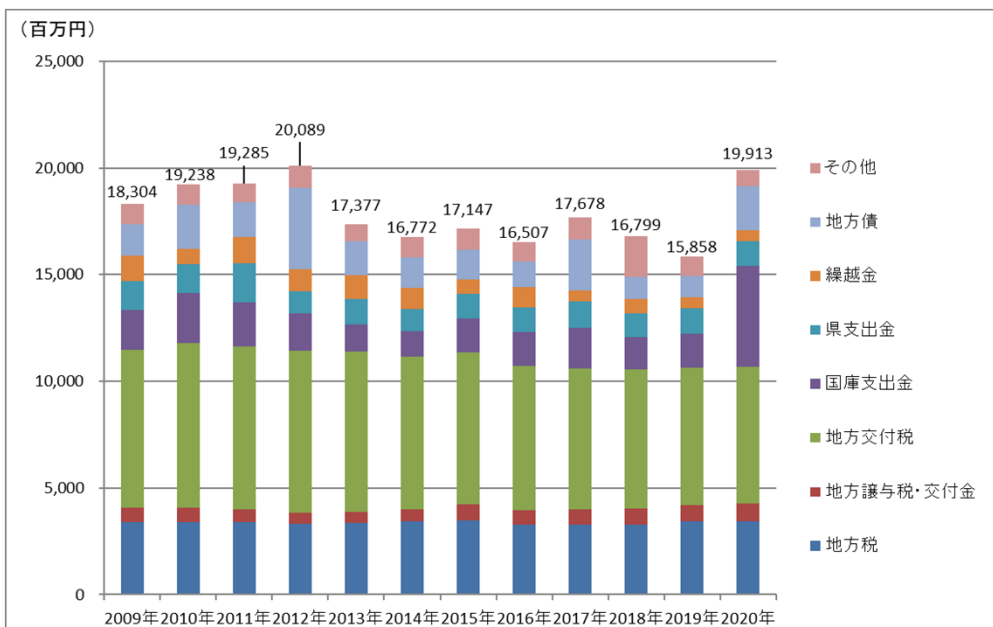


出典:美祢市統計書(令和3年8月)

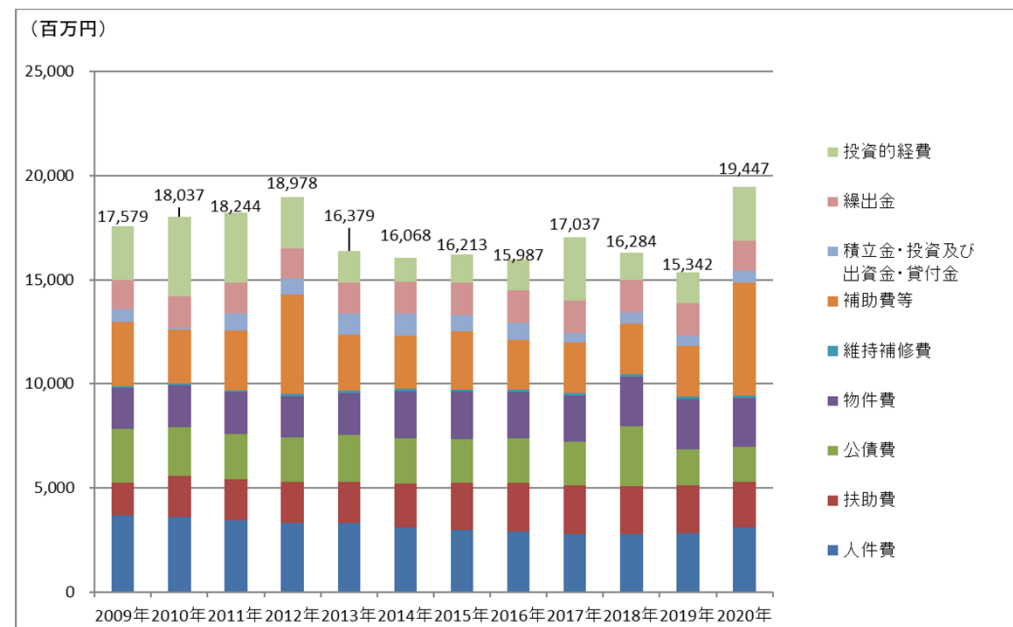
# 6) 財政動向 歳入歳出

- 2012年度以降、歳入・歳出ともに減少傾向となっている。
- 歳入では自主財源（地方税、繰越金、その他（分担金及び負担金、使用料及び手数料、財産収入、繰入金など））が約30%、歳出では義務的経費（人件費、扶助費、公債費）が約50%近くを占め、財政構造の弾力性が低下している。
- 2020年度は新型コロナウイルス感染症の対応に伴う国及び本市の補正及び緊急対応策を講じたことにより、歳入・歳出ともに増加している。

## ■歳入の推移



## ■歳出の推移

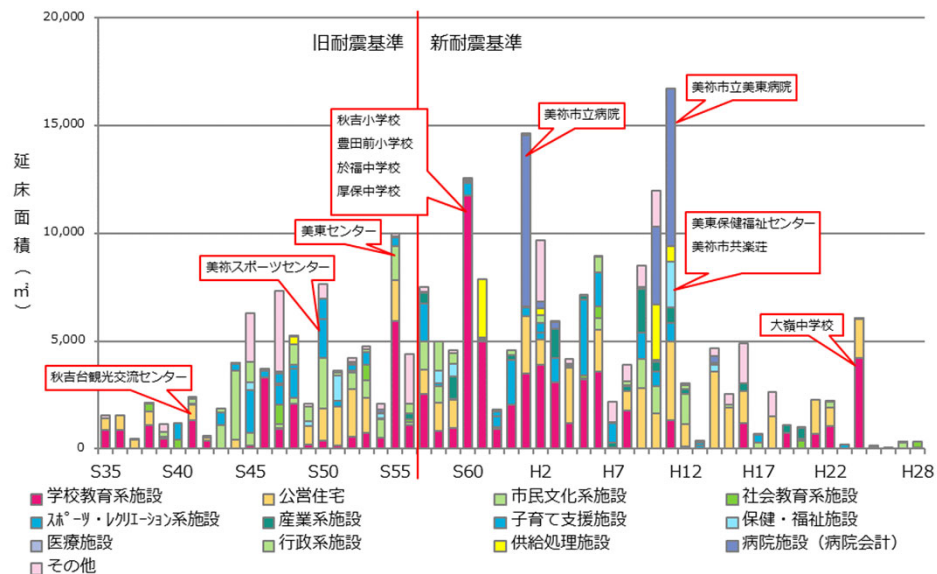


出典：美祢市決算の状況

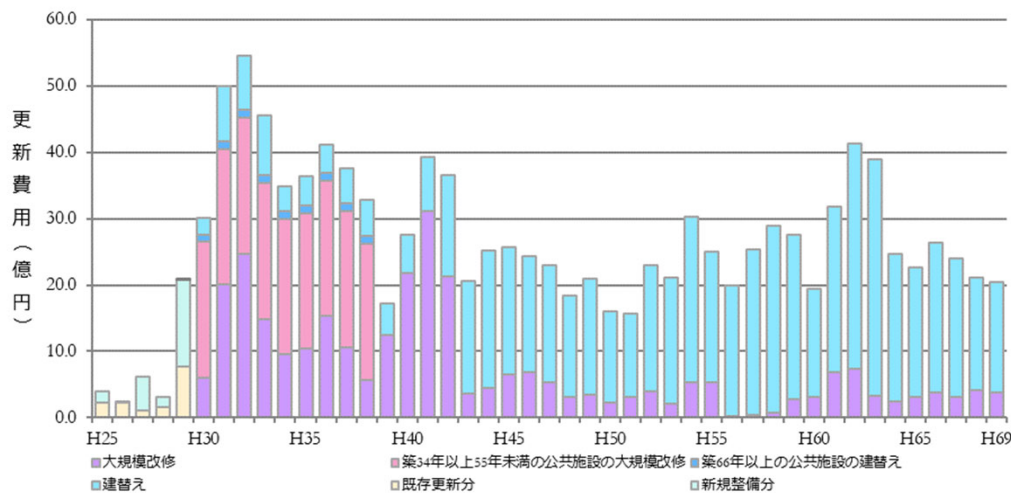
# 6) 財政動向 公共施設の更新

- 合併市である本市は多くの公共施設を保有しており、その施設数は約400施設となっている。
- また、1981年以前に建てられた旧耐震基準の施設が約8.9万㎡（全体の34.9%）となっており、施設の老朽化・耐震化への対策が必要な施設が多く見られる。
- 現在保有しているハコモノ施設の全てをそのまま更新、保全とした場合、今後40年間における更新費用の総額は1,164.7億円（29.1億円／年）である。
- 2011年から2015年度までの更新や保全にかかった費用の決算額が年平均5.74億円であり、現在の状況と比較しても多額の更新費用が必要である。

■ 公共建築物(ハコモノ)の築年別延床面積



■ 公共建築物(ハコモノ)の更新費用

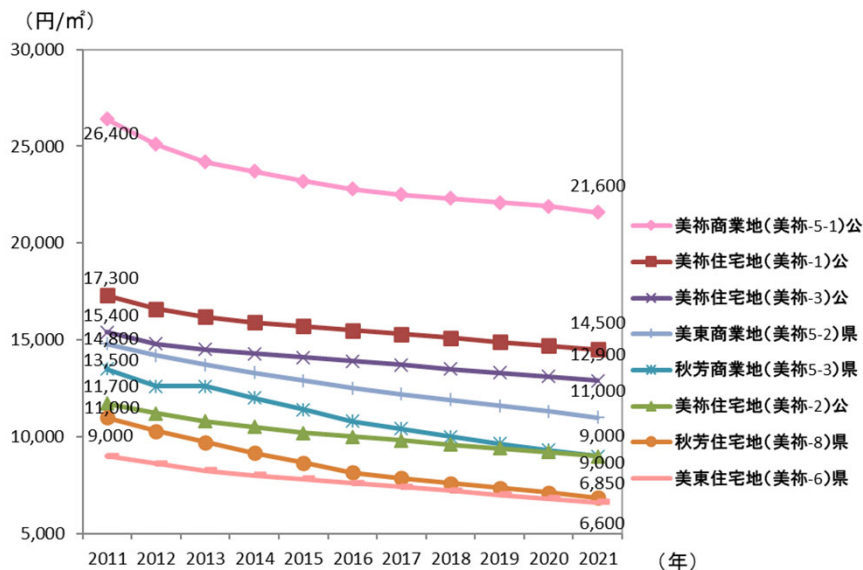
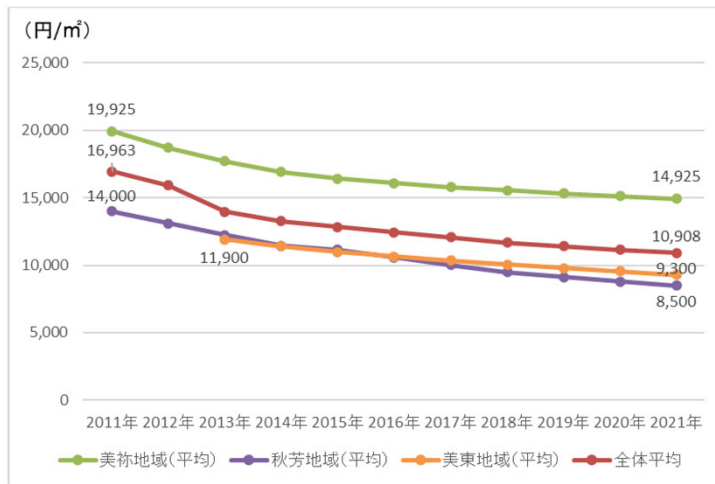


出典：公共施設等総合管理計画基本方針(2019年3月)

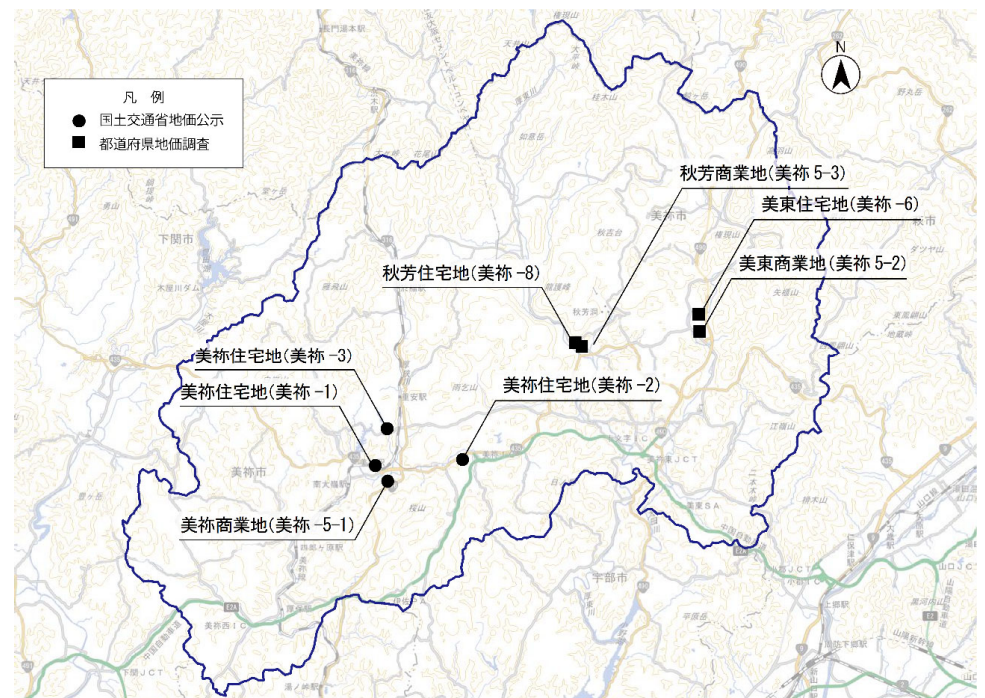
# 7) 地価動向 公示地価

- 平均地価は全地域（美祢地域、秋芳地域、美東地域）で下落が続いているが、近年の下落幅は緩やかになっている。
- 市内の主な公示地価の推移を見ると、いずれの地点でも2011年に比べ、地価は下落傾向が続いている。秋芳総合支所周辺（美祢5-3、美祢-8）の公示地価が最も減少している。

## ■ 公示地価の推移



## ■ 公示地価の位置図



出典: 国土交通省 土地総合情報システム

# 8) 災害動向 災害の履歴、ハザード区域

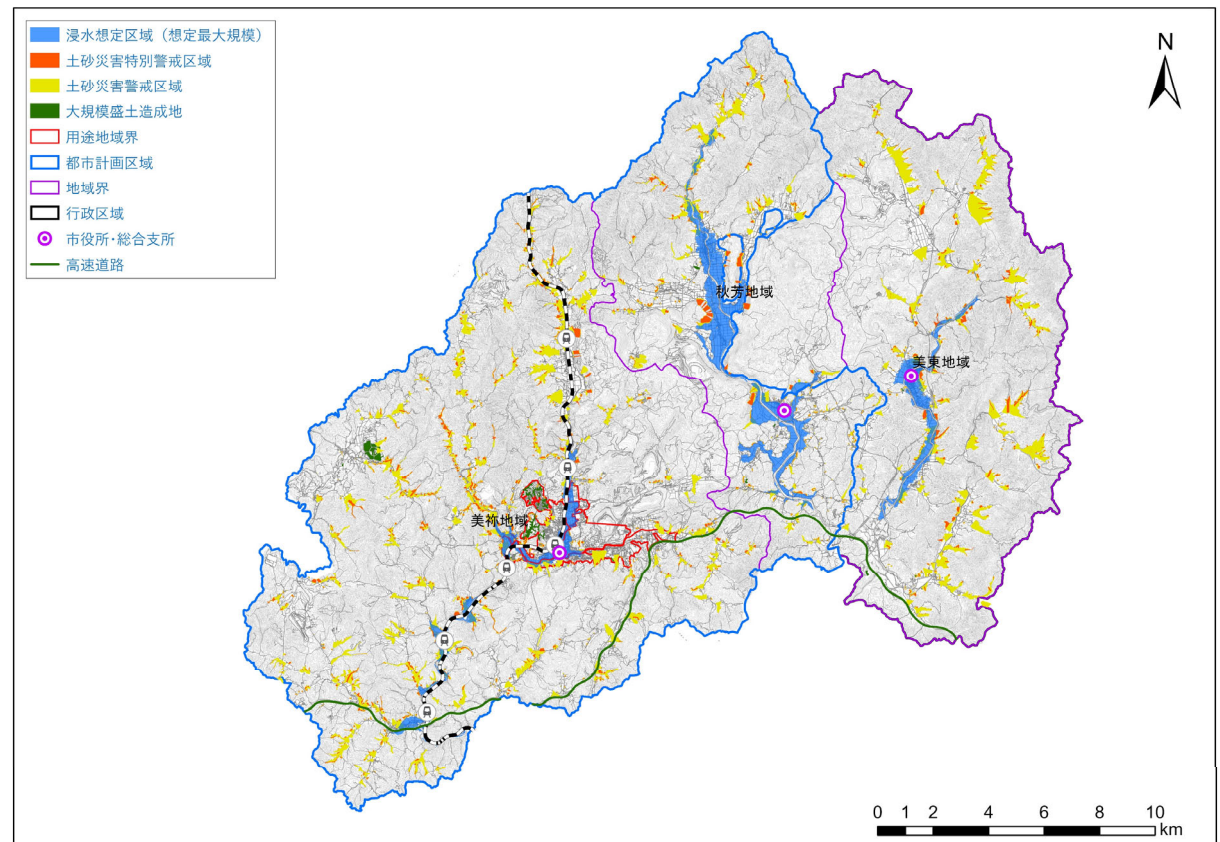
- 本市で発生した又は被害を受けた災害の発生履歴を見ると、集中豪雨による災害と烈風による火災が多い。
- 洪水浸水想定区域は、3地域それぞれの市役所・支所周辺（美祢地域：厚狭川、秋芳地域：厚東川、美東地域：大田川）に分布している。
- 3地域全てで、土砂災害特別警戒区域や土砂災害警戒区域が分布しており、美祢地域では用途地域内にも土砂災害警戒区域の分布が見られる。

## ■ 災害の履歴

年代	月	場所	記事
1828	-	真名	大風にて 80 戸倒壊
1837	4	大嶺村 四郎ヶ原宿	東風の烈風で 64 戸を焼失
1843	3	大嶺村奥畑	山野より出火、烈風のため部落 16 戸のうち 12 戸焼失
1871	1	河原村	烈風で一時的に 76 戸焼失
1926	7	伊佐村 大嶺村	伊佐村 浸水家屋 60 戸橋流失 4 大嶺村 浸水家屋 30 戸 堤防決壊 10 間 団地家屋商品の損害多大
1928	6	伊佐町 於福村 大嶺町妻川	伊佐町 浸水 50 戸 於福村 浸水 100 戸 大嶺町妻川 浸水 100 戸
1952	5	大嶺町入見	民家 13 戸・集会所 1 戸 煙草乾燥場 10 棟焼失 最大風速 12.2m/s(ENE)
1953	6	伊佐町	厚狭川が氾濫し(梅雨前線)美祢線は各地で寸断された伊佐町では救助法を適用
1954	-	美祢線及び 主要幹線道路	線路・道路に大被害 市に救助法を適用
1955	4	於福町台山	開拓団付近の原野 100 ヘクタールを焼き 19 時 30分に鎮火最大瞬間風速 10.0m/s(WNW)
1957	-	大嶺町荒川	榎木山炭坑社宅 25 世帯焼失
2003	7	大嶺町妻川	集中豪雨により家屋倒壊 1 戸 避難勧告 6 世帯 16 名
2004	9	美祢地区 管内全域	台風 18 号の暴風被害 死者 1 名、負傷者 14 名、ライフライン(停電、断水等)断絶、 倒木による交通遮断、家屋損壊多数発生
2009	7	市全域	集中豪雨により 死者 1 名 床上浸水 2 棟 床下浸水 26 棟
2010	7	市南西部	集中豪雨による土砂災害、浸水被害が多数発生 家屋被害 全壊 2 棟 半壊 23 棟 床上浸水 103 棟 床下浸水 180 棟
2015	8	美祢地域	台風 15 号による集中豪雨被害 家屋被害 床上浸水 2 棟 床下浸水 15 棟 一部損壊 2 棟
2018	7	市全域	集中豪雨により 全壊 1 棟 床上浸水 3 棟

出典：美祢市地域防災計画(2022年4月)

## ■ ハザード区域の状況図



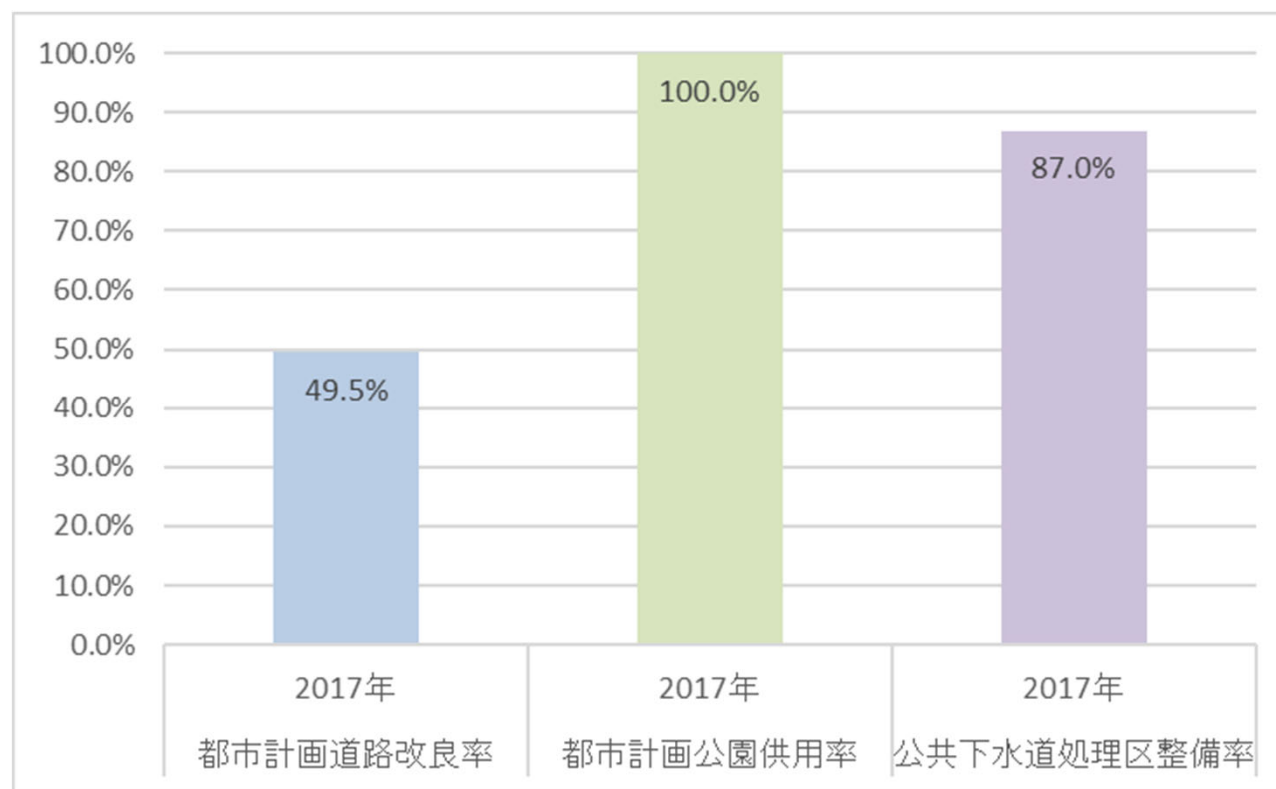
出典：美祢市資料、国土数値情報(土砂災害警戒区域)

## 9) 都市施設動向 道路・市街地整備

- 都市計画道路改良率は、49.5%となっている。
- 都市計画公園供用率は、100%となっている。
- 公共下水道処理区整備率は、87.0%となっている。

### ■ 都市施設の整備進捗状況

データ更新予定



## ② 将来見通しにおける都市が抱える課題の分析

### 1) 人口見通しに関する分析

- 本市の人口は、2040年までに総人口が30.3%減少する推計となっている。
- 地域別では、美祢地域が27.0%、秋芳地域が34.2%、美東地域が37.0%減少する。
  - 年少人口は43.8%減少する。
  - 生産年齢人口は34.7%減少する。
  - 老年人口は22.5%減少する。

#### 【将来人口推計について】

- ✓ 将来推計人口は、国土数値情報(国立社会保障・人口問題研究所の推計値(生残率、純移動率等)を用いた推計)より、地域別に集計を行った。

#### ■ 区域別の総人口と年齢3区分別人口の推移

(単位:人)

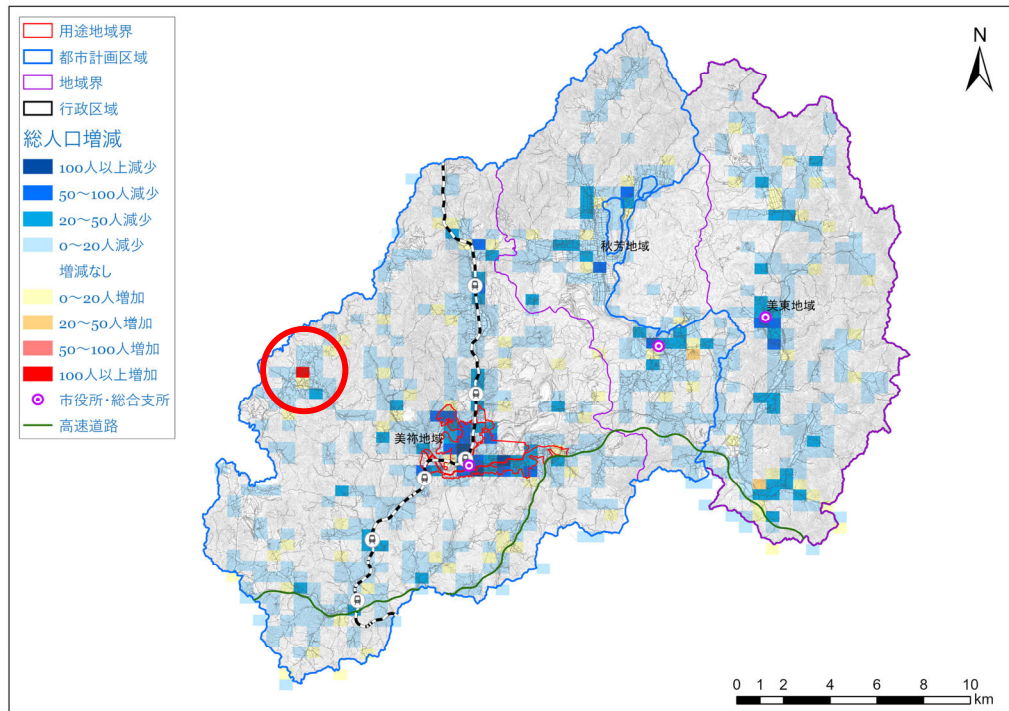
	2020年				2040年			
	総人口	年少人口	生産年齢人口	老年人口	総人口	年少人口	生産年齢人口	老年人口
美祢地域	14,467	1,297	7,546	5,624	10,567	732	5,011	4,824
秋芳地域	4,166	288	1,781	2,097	2,739	174	1,136	1,429
美東地域	4,614	385	2,016	2,213	2,904	201	1,257	1,446
美祢市	23,247	1,970	11,343	9,934	16,211	1,107	7,405	7,699

出典:国勢調査(メッシュ人口、2020年)、国土数値情報(将来推計人口)

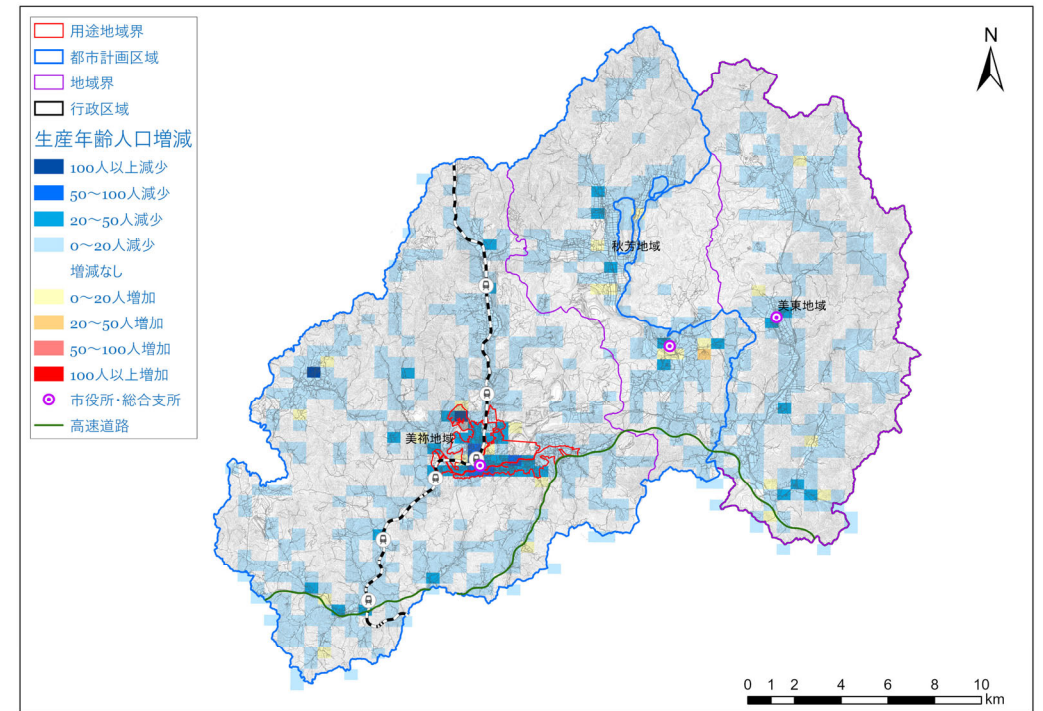
# ①人口増減図 総人口・生産年齢人口

- 総人口は、市役所、総合支所周辺で1メッシュ（1辺約500m）あたり100人以上の減少が見られるが、市内郊外部の一部の地区で人口が増加する推計となっている。
- 生産年齢人口も同様に、市役所、総合支所周辺で人口減少が見られるが、市内郊外部の一部の地区で人口が増加する推計となっている。

■人口増減図(総人口 2020年～2040年)



■人口増減図(生産年齢人口 2020年～2040年)



出典:国勢調査(2020年)、国土数値情報(将来推計人口)

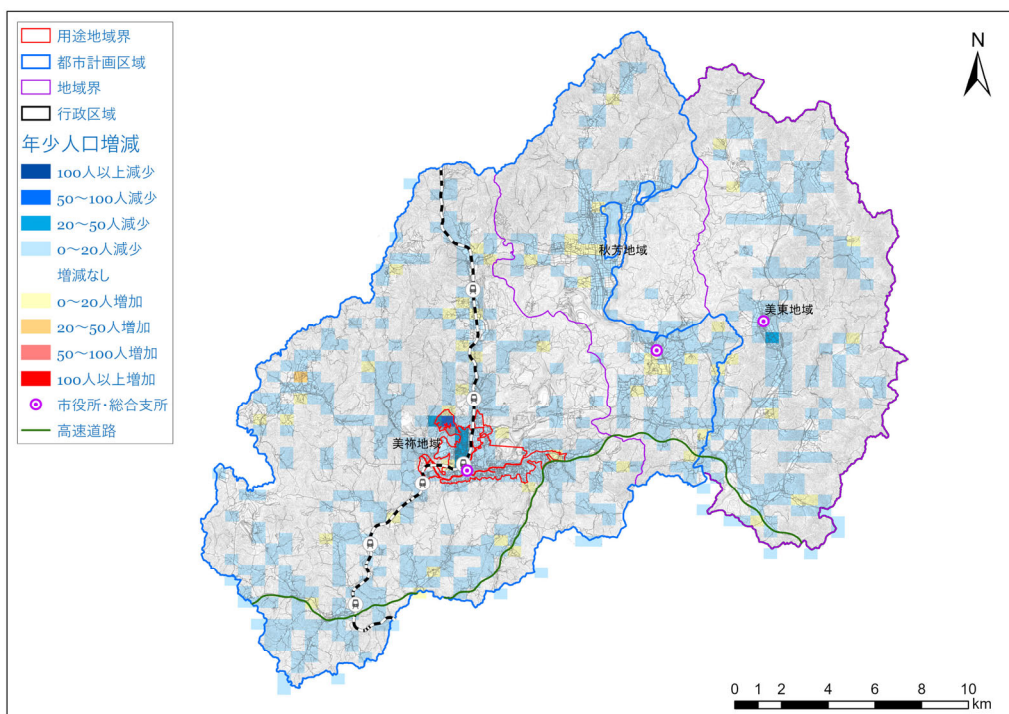
※美祢地域の豊田前地区(赤丸の地区)では人口の増加が見られるが、これは国勢調査で、美祢社会復帰促進センター生の人口も含めて計上しているためである。



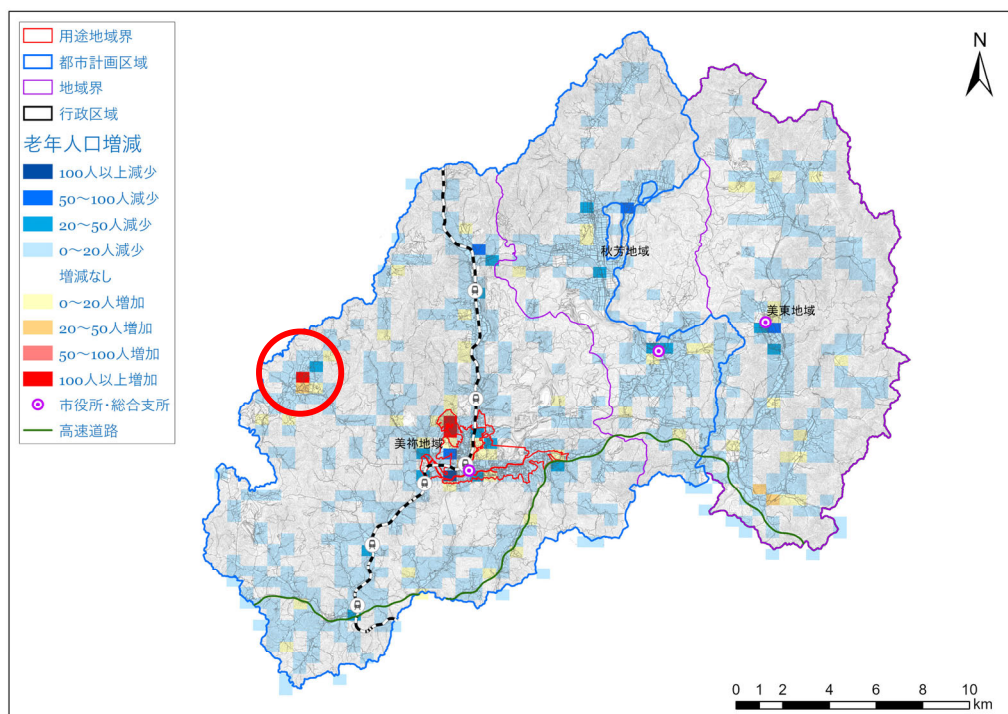
## ②人口増減図 年少人口・老年人口

- 年少人口は、全体的に減少しており、特に美祢地域中心部の来福台地区での減少数が多い。
- 老年人口は、減少するメッシュの方が多いものの、郊外部を中心に増加が見られ、特に美祢地域の来福台地区や豊田前地区など一部の地域では100人以上の増加が見られる。

■人口増減図(年少人口 2020年～2040年)



■人口増減図(老年人口 2020年～2040年)



出典:国勢調査(2020年)、国土数値情報(将来推計人口)

※美祢社会復帰促進センター生の人口も含めて将来推計を行っているため、老年人口が大幅に増加している。

## 2) 生活サービス施設の利便性・持続可能性

- 各生活サービス施設について、2020年と2040年の徒歩圏内（800m）人口と、人口に占める割合（カバー率）を算出した。
- 市全域における生活サービス別の徒歩圏人口とカバー率をみると、2020年時点では、「行政施設」を除いて、31.8～47.4%のカバー率である。
- 2020年から2040年にかけて、全ての生活サービス施設において、人口が減少する。
- 一方、行政施設、介護福祉施設、商業施設、金融施設、交流・文化施設のカバー率は上昇する。
- 施設別のカバー率は、2040年時点では「行政施設」が最も低い。またそれ以外の施設のカバー率も50%未満である。

■生活サービス施設の徒歩圏内人口とカバー率 (単位:人、%)

	2020年		2040年		人口増減	
	人口	カバー率	人口	カバー率	人口増減数	人口増減率
市全域	23,247		16,211		-7,036	-30.3%
年少人口	1,970		1,107		-863	-43.8%
生産年齢人口	11,343		7,405		-3,938	-34.7%
老年人口	9,934		7,699		-2,235	-22.5%
行政施設徒歩圏	3,437	14.8%	2,469	15.2%	-968	-28.2%
介護福祉施設徒歩圏	3,629	36.5%	2,925	38.0%	-704	-19.4%
子育て施設徒歩圏	933	47.4%	490	44.3%	-443	-47.5%
教育施設徒歩圏	844	42.8%	435	39.3%	-409	-48.5%
商業施設徒歩圏	6,096	26.2%	4,335	26.7%	-1,761	-28.9%
医療施設徒歩圏	7,394	31.8%	5,056	31.2%	-2,338	-31.6%
金融施設徒歩圏	10,803	46.5%	7,998	49.3%	-2,805	-26.0%
交流・文化施設徒歩圏	9,767	42.0%	7,460	46.0%	-2,307	-23.6%

※子育て施設・教育施設は年少人口に対するカバー率  
 ※介護福祉施設は老年人口に対するカバー率

## 2) 生活サービス施設の利便性・持続可能性

### ■生活サービス施設の抽出基準

	施設	掲載基準	根拠データ
1	行政施設	市役所、支所	国土数値情報
2	介護福祉施設	通所系高齢者施設 (通所介護、地域密着型通所介護、認知症対応型通所介護、通所リハビリテーション、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、地域密着型介護老人福祉施設、介護療養型医療施設、認知症対応型共同生活介護) ※障害者福祉施設は除く ※複数のサービス機能のある施設(住所同じ)は1施設でカウント(施設の周辺に分布する人口把握が目的であるため)	国土数値情報、市データ
3	子育て支援施設	保育所、認定こども園(幼稚園)等の未就学児を対象とした施設、児童クラブ、病児保育施設 ※休園施設は対象とする	国土数値情報、市データ
4	教育施設	小学校、中学校、高校	市HP
5	商業施設	大規模小売店舗(店舗面積1,000㎡超)、ドラッグストア、ディスカウントショップ、スーパーマーケット	iタウンページ(NTTタウンページ株)、大規模小売店舗立地法届出状況一覧(山口県)、市データ
6	医療施設	病院、一般診療所 ※特別養護老人ホーム等の施設では診療機能を有する施設もあるが、一般外来等を受け付けていないことから対象外とする	国土数値情報、市データ
7	金融施設	金融機関(JA、郵便局含む) ※簡易郵便局は対象外とする	iタウンページ、金融機関HP、市データ
8	交流・文化施設	公民館、その他社会教育施設	市HP

※基準日(2022年4月)

# ① 行政施設

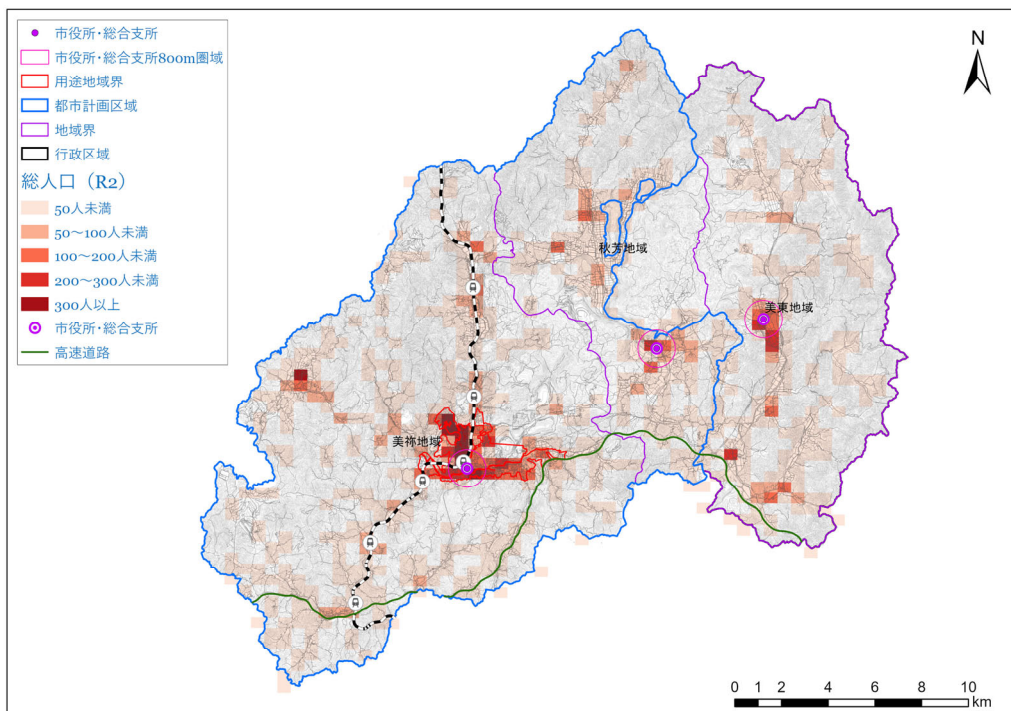
- 地域別にみると、美祢地域のカバー率が13.2%で最も低く、秋芳地域、美東地域は市全体のカバー率より高い。
- 2040年にかけて全ての地域で人口が減少する。

## ■ 徒歩圏内人口と割合

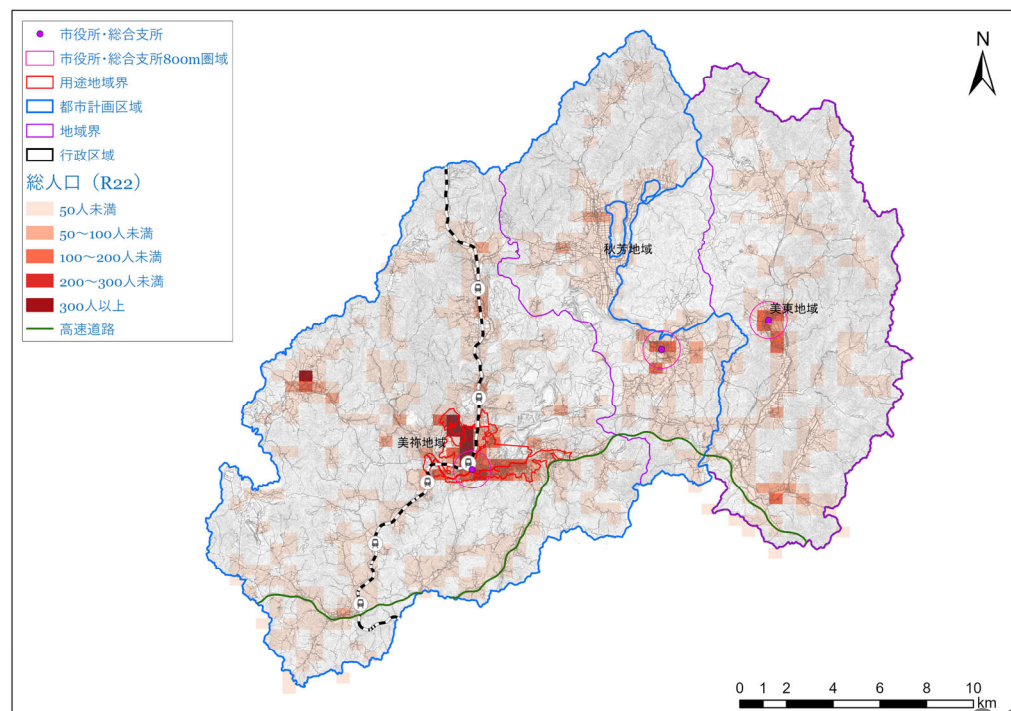
(単位：人、%)

	2020年			2040年			徒歩圏人口増減	
	総人口	徒歩圏人口	カバー率	総人口	徒歩圏人口	カバー率	実数	増減率
行政施設徒歩圏	23,247	3,437	14.8	16,212	2,469	15.2	-968	-28.2
美祢地域	14,467	1,910	13.2	10,567	1,393	13.2	-517	-27.1
秋芳地域	4,166	688	16.5	2,740	504	18.4	-184	-26.7
美東地域	4,614	839	18.2	2,905	572	19.7	-267	-31.8

## ■ 徒歩圏内の人口分布状況(2020年)



## ■ 徒歩圏内の人口分布状況(2040年)



# ②介護福祉施設

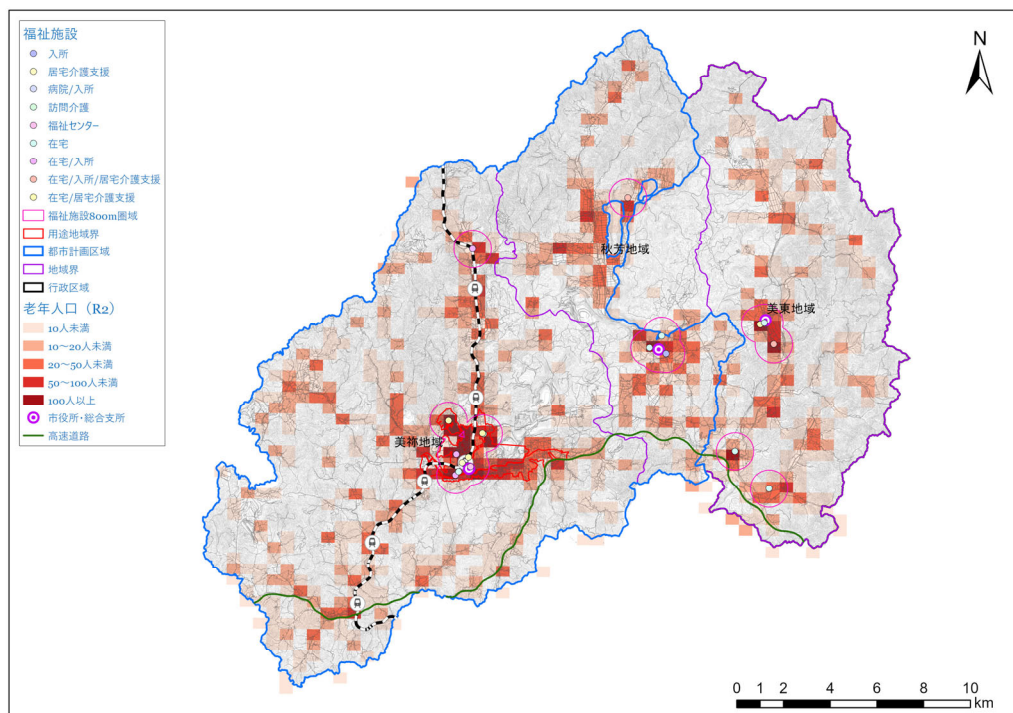
- 地域別にみると、美祢地域が36.6%、秋芳地域が25.8%、美東地域が47.6%と地域別のカバー率にばらつきがある。
- 本市全体のカバー率36.5%は、全国10万人未満都市の平均34.8%よりやや高い。
- 2040年にかけて全地域で老年人口は減少するが、美祢地域の減少率5.3%に対し、秋芳地域36.4%、美東地域38.8%と減少率が大きい。

## ■徒歩圏内人口と割合

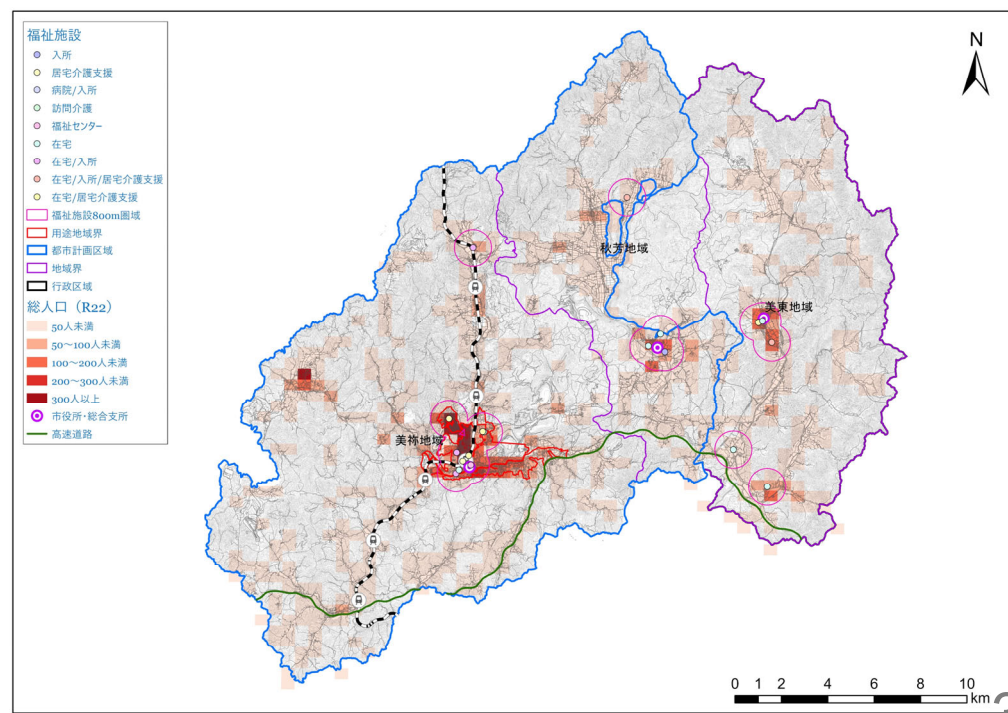
(単位：人、%)

	2020年			2040年			徒歩圏人口増減	
	老年人口	徒歩圏人口	カバー率	老年人口	徒歩圏人口	カバー率	実数	増減率
介護福祉施設徒歩圏	9,934	3,629	36.5	7,699	2,925	38.0	-704	-19.4
美祢地域	5,624	2,060	36.6	4,824	1,951	40.4	-109	-5.3
秋芳地域	2,213	571	25.8	1,446	363	25.1	-208	-36.4
美東地域	2,097	998	47.6	1,429	611	42.8	-387	-38.8

## ■徒歩圏内の人口分布状況(2020年)



## ■徒歩圏内の人口分布状況(2040年)



# ③子育て支援施設

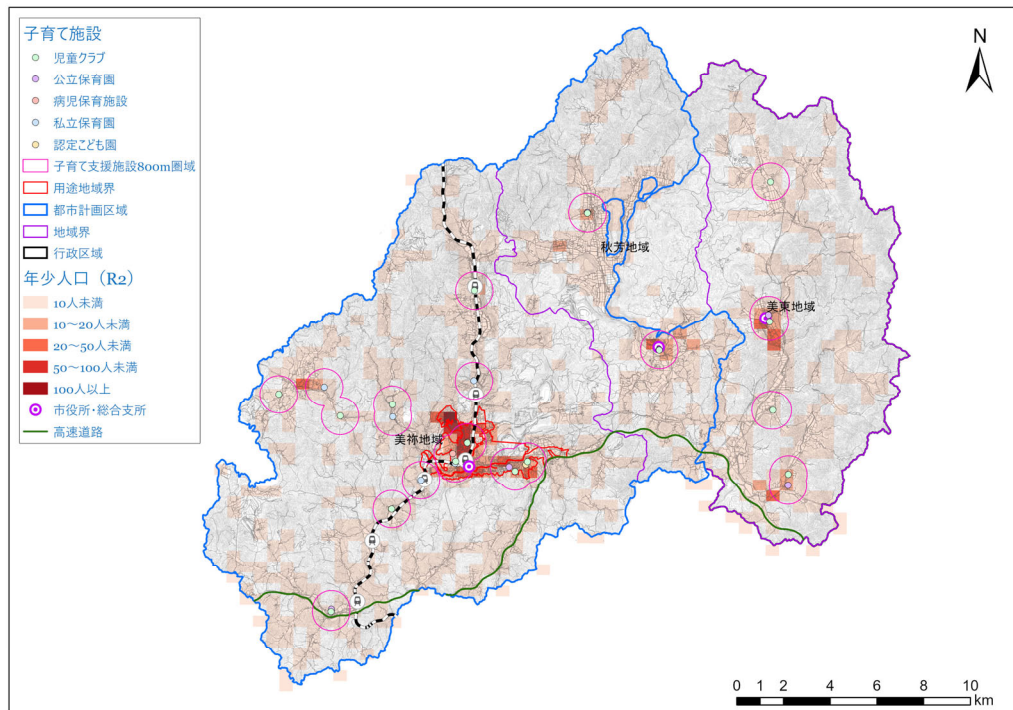
- 地域別にみると、美祢地域が51.1%、秋芳地域が22.3%、美東地域が63.9%で、秋芳地域のカバー率が他地域に比して低い。
- 2040年にかけて、秋芳地域のカバー率は上昇するが、美祢地域、美東地域のカバー率は低下する。

## ■徒歩圏内人口と割合

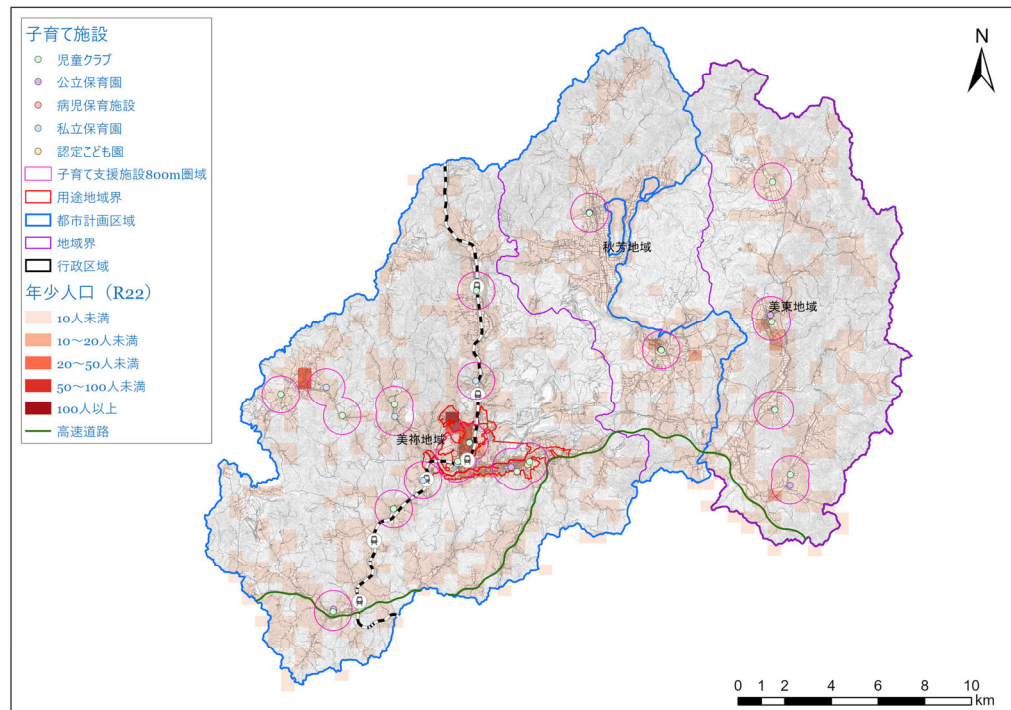
(単位：人、%)

	2020年			2040年			徒歩圏内人口増減	
	年少人口	徒歩圏人口	カバー率	年少人口	徒歩圏人口	カバー率	実数	増減率
子育て施設徒歩圏	1,970	933	47.4	1,107	490	44.3	-443	-47.5
美祢地域	1,297	663	51.1	732	342	46.7	-321	-48.4
秋芳地域	385	86	22.3	201	52	25.9	-34	-39.5
美東地域	288	184	63.9	174	96	55.2	-88	-47.8

## ■徒歩圏内の人口分布状況(2020年)



## ■徒歩圏内の人口分布状況(2040年)



# ④教育施設

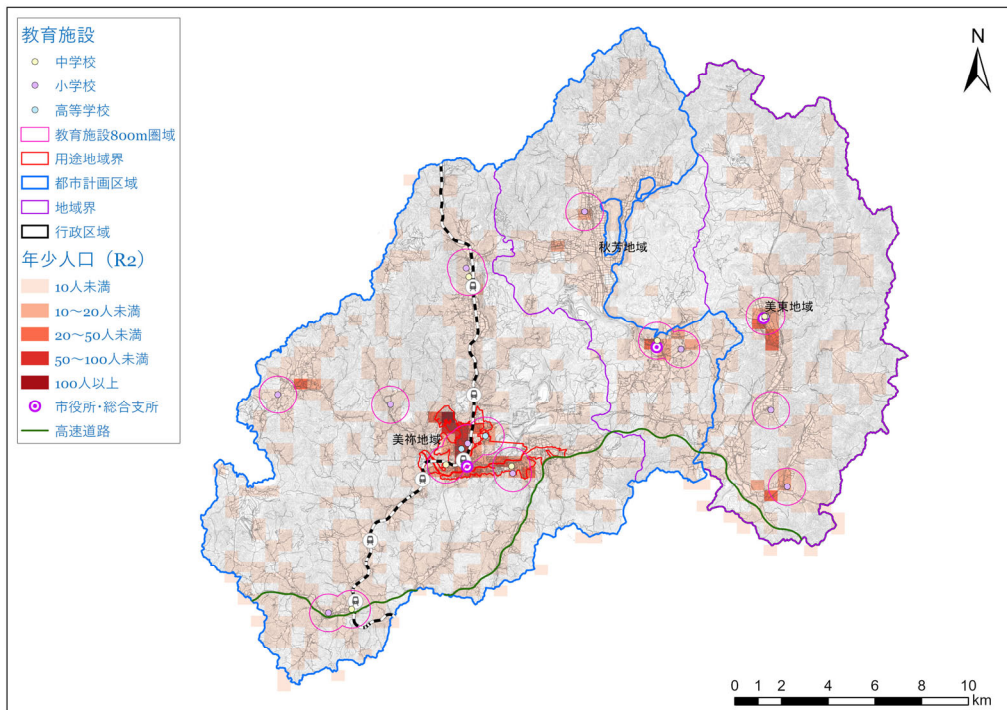
- 地域別にみると、美祢地域が43.6%、秋芳地域が31.4%、美東地域が54.5%で、地域間でカバー率にばらつきがある。
- 2040年にかけて、秋芳地域のカバー率は上昇するが、美祢地域、美東地域ではカバー率が低下する。
- スクールバスの運行により、利便性の向上を図っている。

## ■徒歩圏内人口と割合

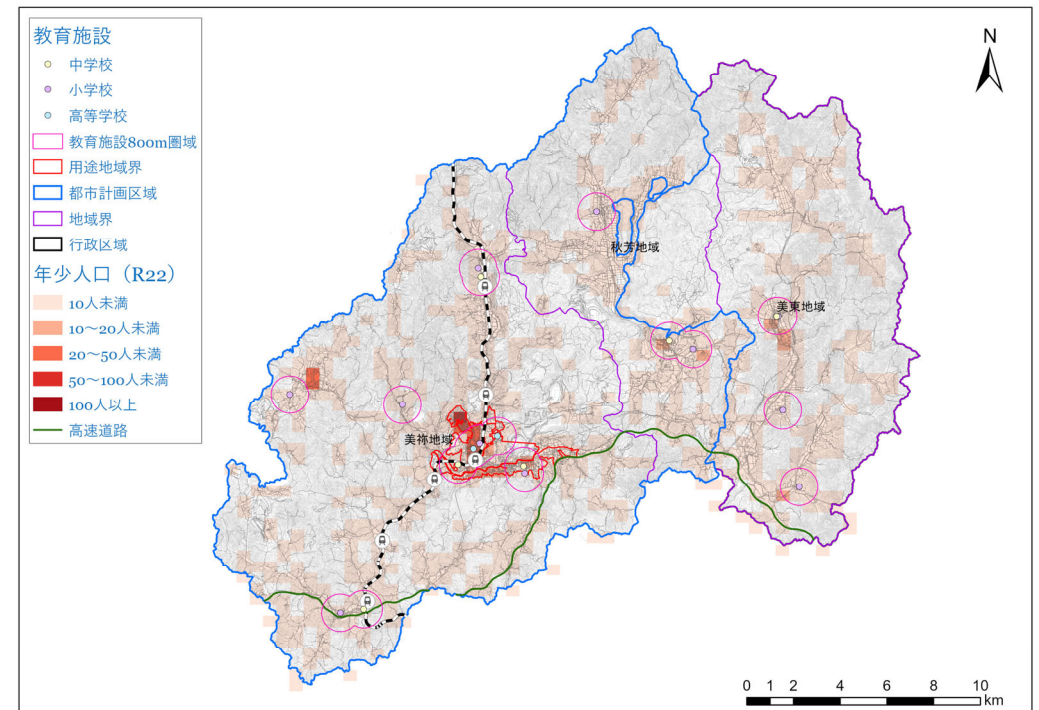
(単位：人、%)

	2020年			2040年			徒歩圏人口増減	
	年少人口	徒歩圏人口	カバー率	年少人口	徒歩圏人口	カバー率	実数	増減率
教育施設徒歩圏	1,970	844	42.8	1,107	435	39.3	-409	-48.5
美祢地域	1,297	566	43.6	732	284	38.8	-282	-49.8
秋芳地域	385	121	31.4	201	70	34.8	-51	-42.1
美東地域	288	157	54.5	174	81	46.6	-76	-48.4

## ■徒歩圏内の人口分布状況(2020年)



## ■徒歩圏内の人口分布状況(2040年)



# ⑤ 商業施設

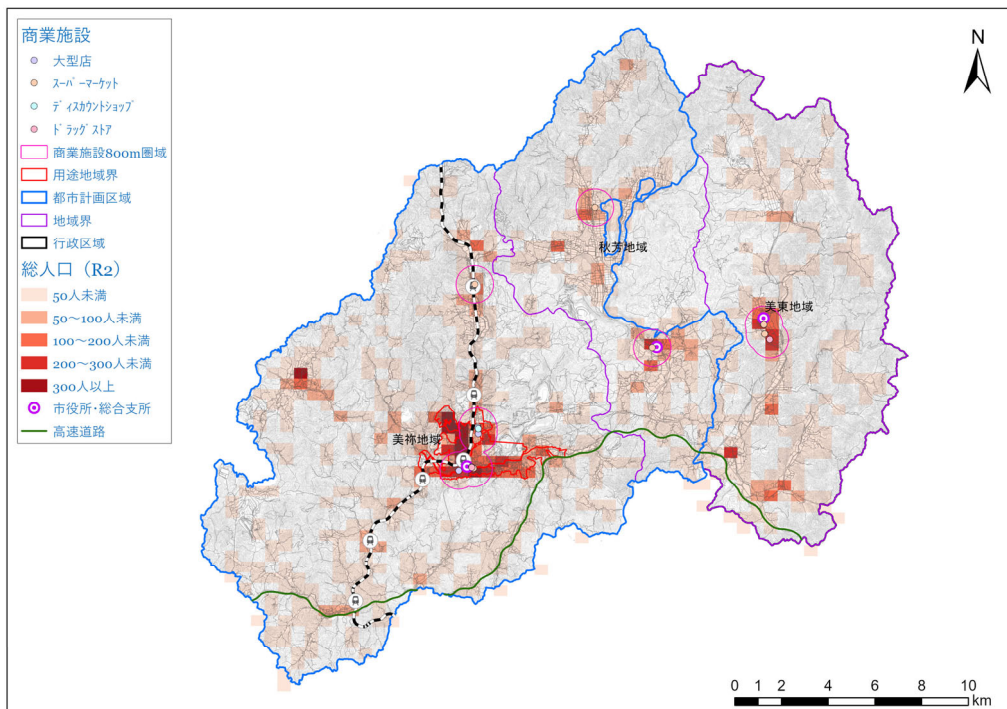
- 地域別にみると、美祢地域が26.9%、秋芳地域が25.3%、美東地域が25.0%で地域別のカバー率は同等である。
- 本市全体のカバー率26.2%は、全国10万人未満都市の平均31.6%より低い。
- 2040年にかけて、秋芳地域、美東地域のカバー率は上昇するものの、いずれも全国平均未満である。
- 秋芳地域、美東地域は商業施設の立地が少なく、サービスが十分に提供されていない。

## ■ 徒歩圏内人口と割合

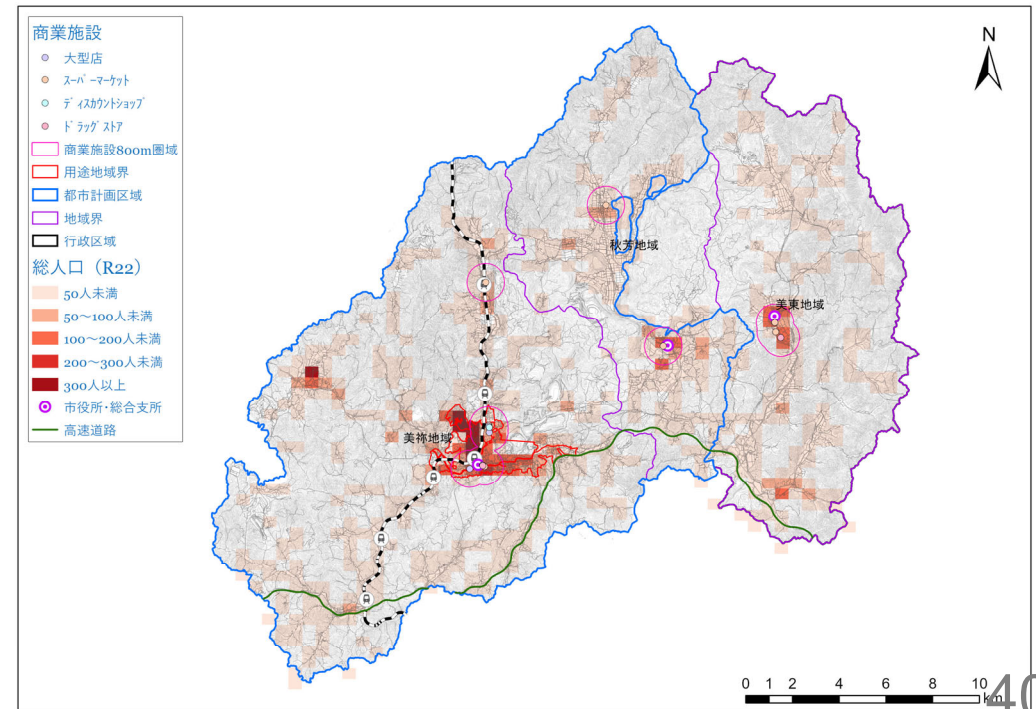
(単位：人、%)

	2020年			2040年			徒歩圏人口増減	
	総人口	徒歩圏人口	カバー率	総人口	徒歩圏人口	カバー率	実数	増減率
商業施設徒歩圏	23,247	6,096	26.2	16,212	4,335	26.7	-1,761	-28.9
美祢地域	14,467	3,887	26.9	10,567	2,774	26.3	-1,113	-28.6
秋芳地域	4,166	1,055	25.3	2,740	767	28.0	-288	-27.3
美東地域	4,614	1,154	25.0	2,905	794	27.3	-360	-31.2

## ■ 徒歩圏内の人口分布状況(2020年)



## ■ 徒歩圏内の人口分布状況(2040年)





# ⑥ 医療施設

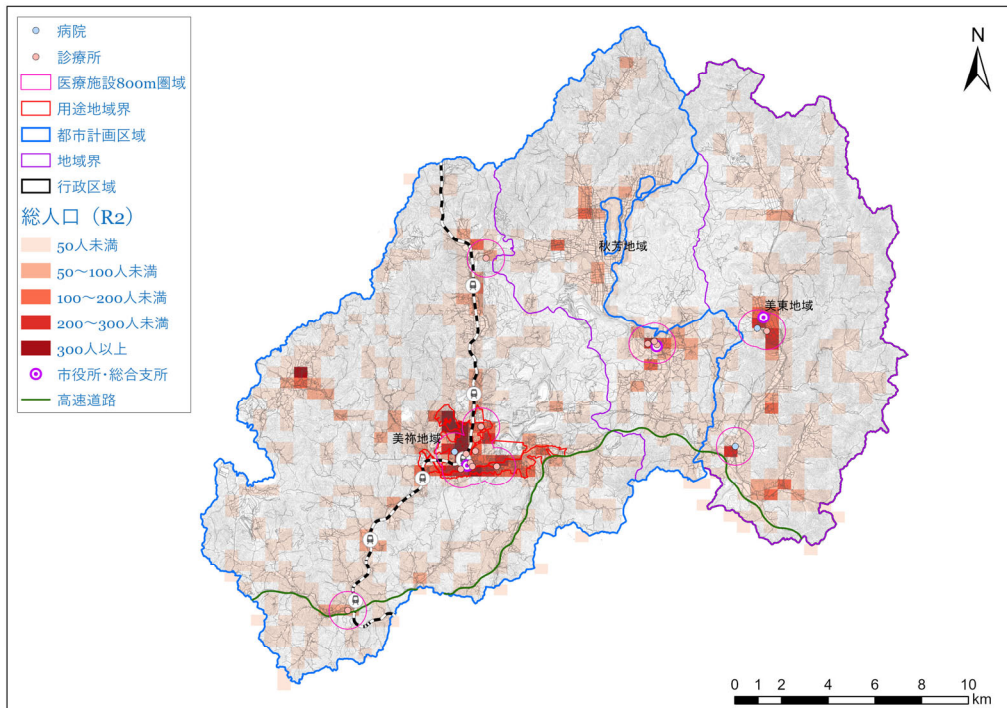
- 地域別にみると、美祢地域が36.6%、秋芳地域が18.7%、美東地域が28.6%で、地域間でカバー率にばらつきが生じている。
- 本市全体のカバー率31.8%は、全国10万人未満都市の平均54.1%より低い。
- 2040年にかけて、秋芳地域のカバー率は上昇するが、全ての地域でカバー率は全国平均未満である。
- 美祢市立病院と美東病院間を行き来するシャトルバス等により、利便性向上を図っている。

## ■ 徒歩圏内人口と割合

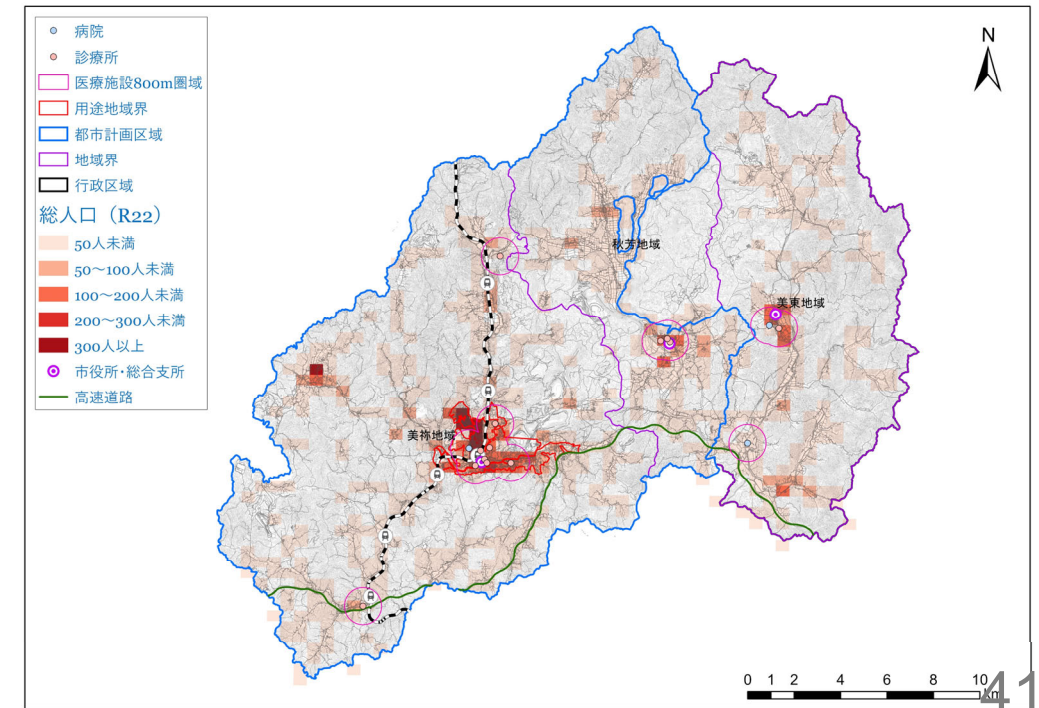
(単位：人、%)

	2020年			2040年			徒歩圏人口増減	
	総人口	徒歩圏人口	カバー率	総人口	徒歩圏人口	カバー率	実数	増減率
医療施設徒歩圏	23,247	7,394	31.8	16,212	5,056	31.2	-2,338	-31.6
美祢地域	14,467	5,296	36.6	10,567	3,760	35.6	-1,536	-29.0
秋芳地域	4,166	778	18.7	2,740	563	20.5	-215	-27.6
美東地域	4,614	1,320	28.6	2,905	733	25.2	-587	-44.5

## ■ 徒歩圏内の人口分布状況(2020年)



## ■ 徒歩圏内の人口分布状況(2040年)



# ⑦金融施設

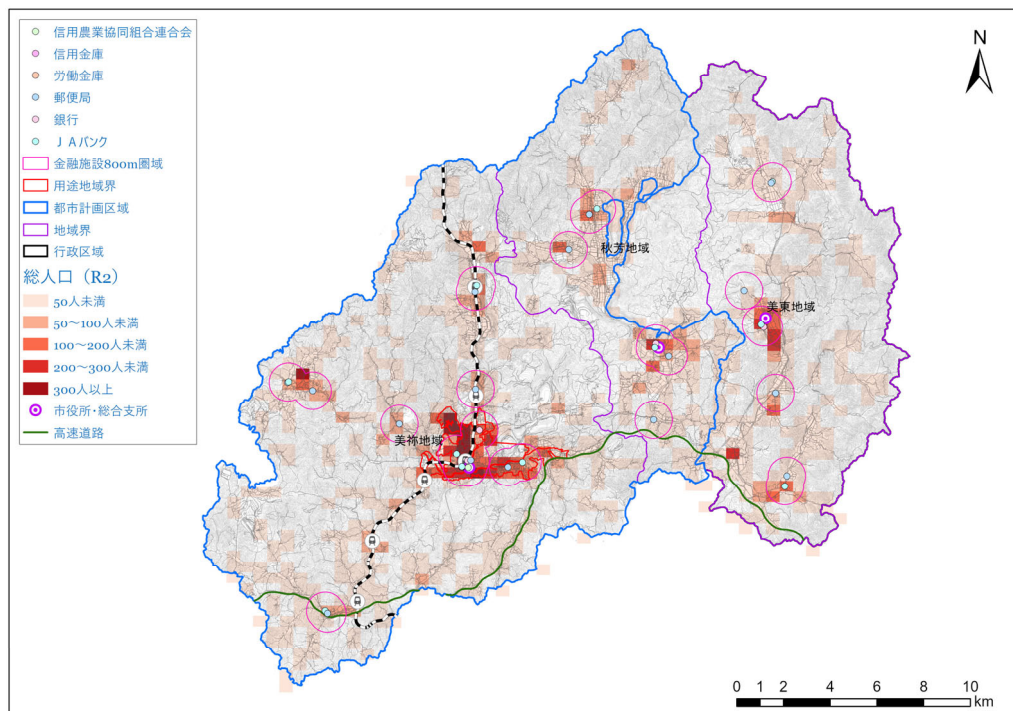
- 地域別にみると、美祢地域が50.7%、秋芳地域が40.4%、美東地域が38.8%で、美祢地域のカバー率のみ50%を超えている。
- 2040年にかけて、全ての地域でカバー率は上昇し、概ね半数の人口をカバーする。

## ■徒歩圏内人口と割合

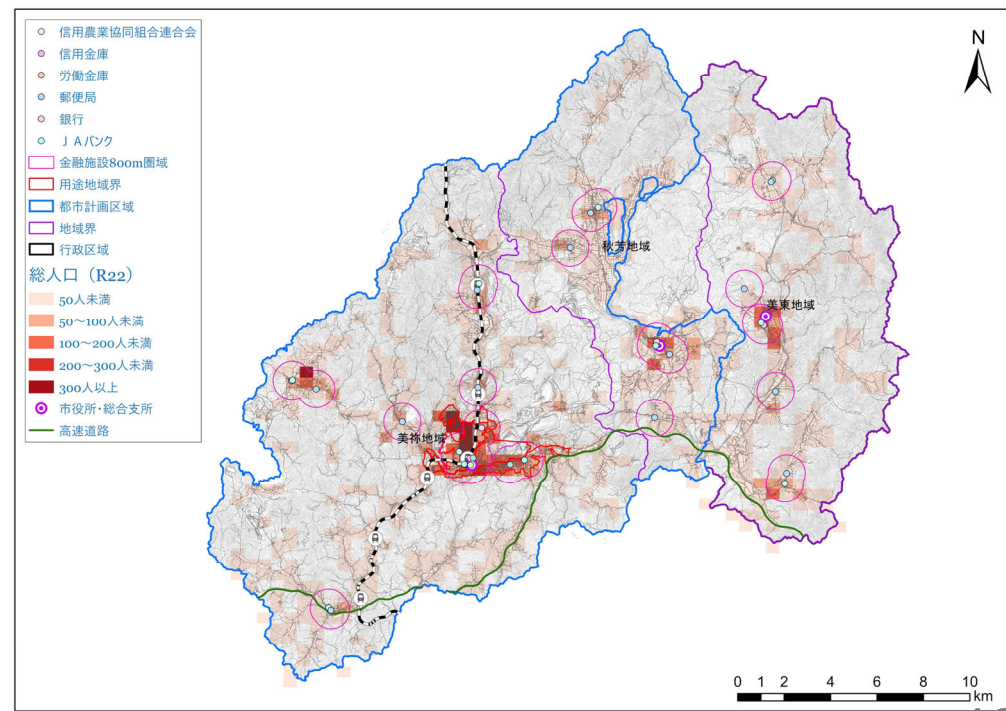
(単位：人、%)

	2020年			2040年			徒歩圏人口増減	
	総人口	徒歩圏人口	カバー率	総人口	徒歩圏人口	カバー率	実数	増減率
<b>金融施設徒歩圏</b>	23,247	10,803	46.5	16,212	7,998	49.3	-2,805	-26.0
<b>美祢地域</b>	14,467	7,328	50.7	10,567	5,572	52.7	-1,756	-24.0
<b>秋芳地域</b>	4,166	1,683	40.4	2,740	1,174	42.8	-509	-30.2
<b>美東地域</b>	4,614	1,792	38.8	2,905	1,252	43.1	-540	-30.1

## ■徒歩圏内の人口分布状況(2020年)



## ■徒歩圏内の人口分布状況(2040年)



# ⑧ 交流・文化施設

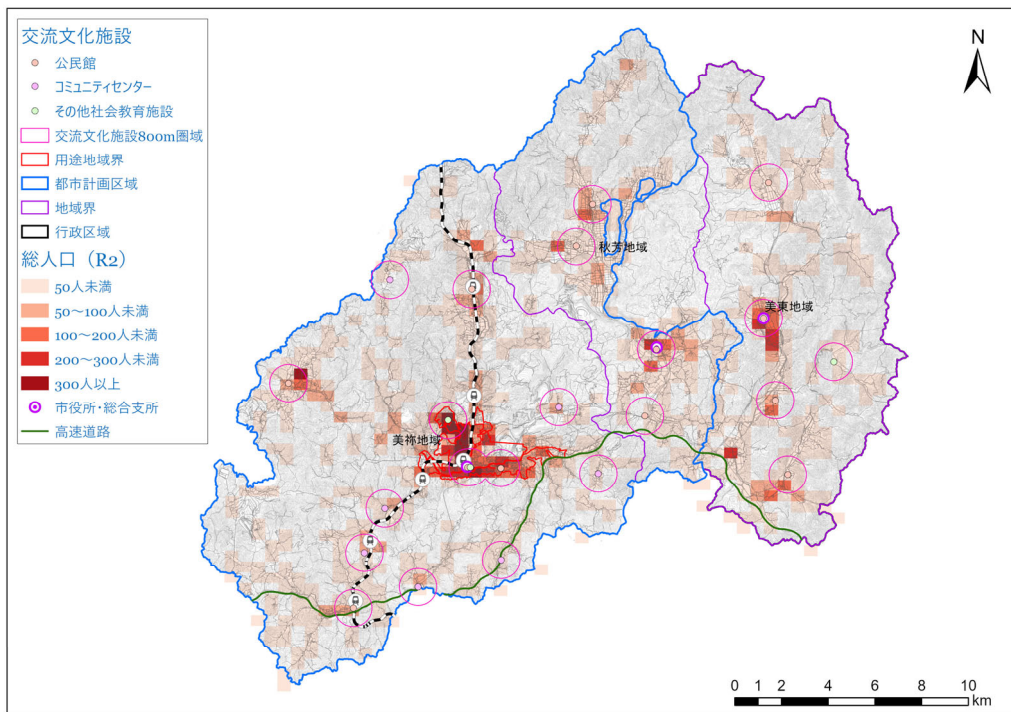
- 地域別にみると、美祢地域が46.6%、秋芳地域が34.6%、美東地域が34.2%で、美祢地域のカバー率がやや高い。
- 2040年にかけて、全ての地域でカバー率は上昇し、美祢地域では50%超となる。

## ■ 徒歩圏内人口と割合

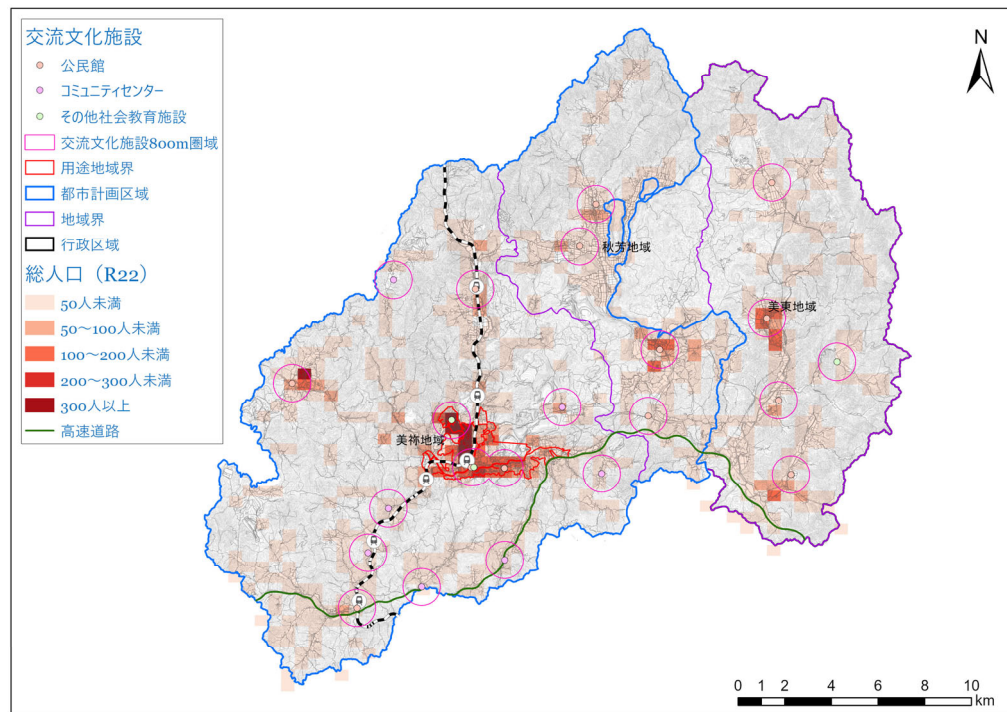
(単位：人、%)

	2020年			2040年			徒歩圏人口増減	
	総人口	徒歩圏人口	カバー率	総人口	徒歩圏人口	カバー率	実数	増減率
交流・文化施設徒歩圏	23,247	9,767	42.0	16,212	7,460	46.0	-2,307	-23.6
美祢地域	14,467	6,747	46.6	10,567	5,372	50.8	-1,375	-20.4
秋芳地域	4,166	1,440	34.6	2,740	1,016	37.1	-424	-29.4
美東地域	4,614	1,580	34.2	2,905	1,072	36.9	-508	-32.2

## ■ 徒歩圏内の人口分布状況(2020年)



## ■ 徒歩圏内の人口分布状況(2040年)



# 3) 公共交通の利便性・持続可能性

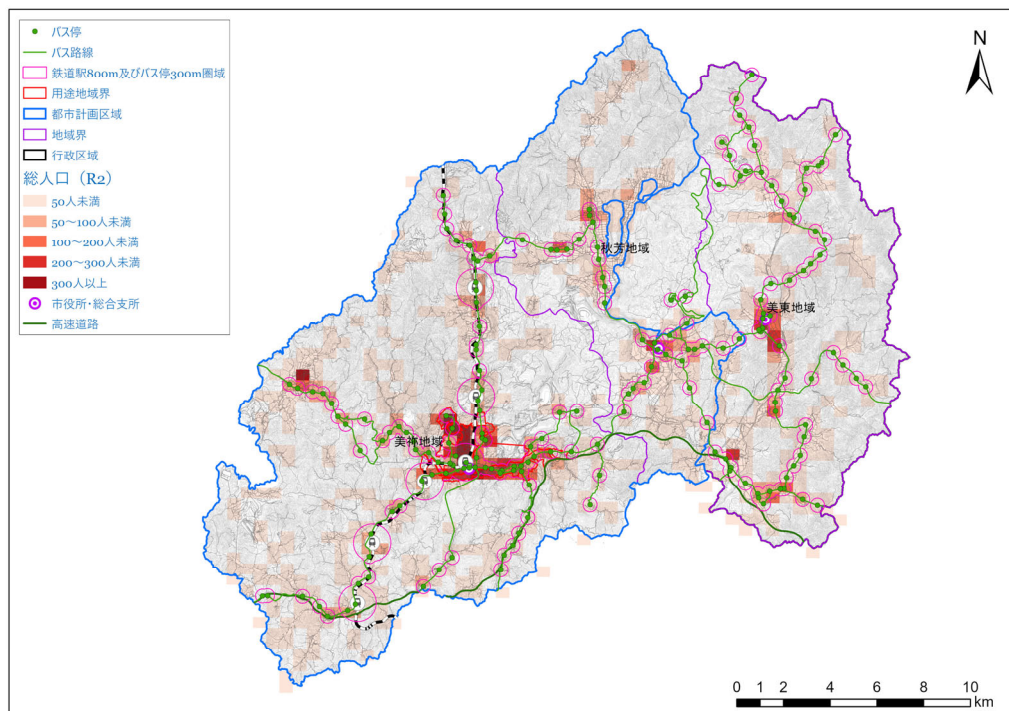
- 鉄道駅又は路線バス・コミュニティバスのバス停からの徒歩圏（鉄道駅は800m圏内、バス停から300m圏内）における人口を算出し、そのカバー率を算出した。
- 地域別にみると、2040年のカバー率は美祢地域が最も高く53.8%である。秋芳地域は38.8%、美東地域は45.2%と50%未満であるが、カバー率は上昇する。

## 公共交通機関から徒歩圏内の人口と割合

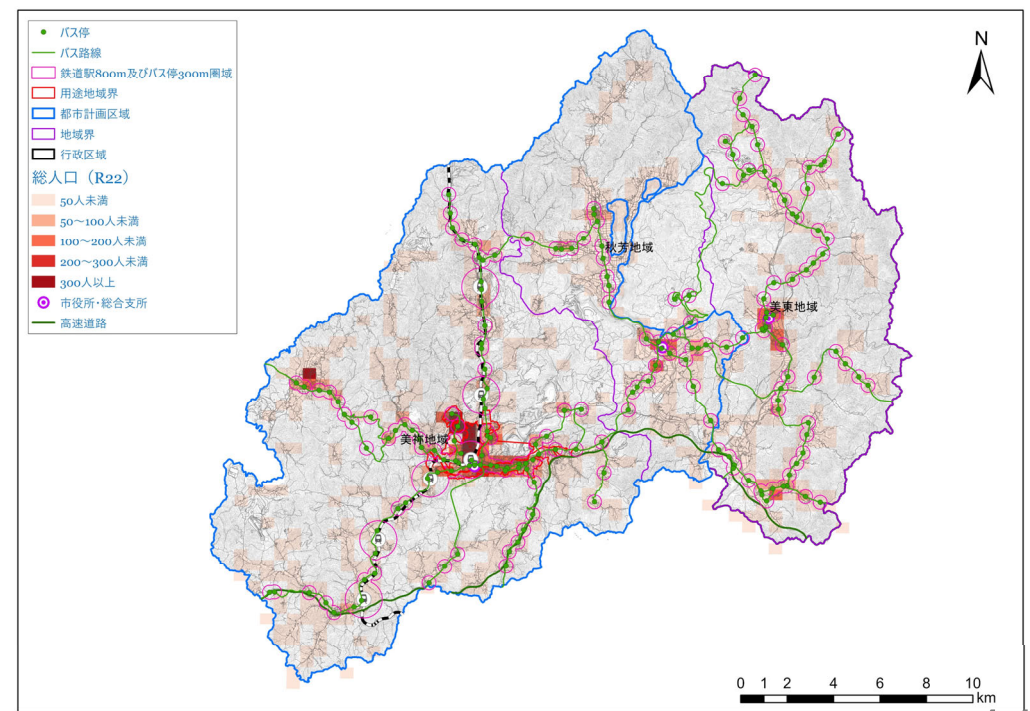
(単位：人、%)

	2020年			2040年			徒歩圏人口増減	
	総人口	徒歩圏人口	カバー率	総人口	徒歩圏人口	カバー率	実数	増減率
公共交通徒歩圏	23,247	11,370	48.9	16,212	8,063	49.7	-3,307	-29.1
美祢地域	14,467	7,923	54.8	10,567	5,686	53.8	-2,237	-28.2
秋芳地域	4,166	1,483	35.6	2,740	1,064	38.8	-419	-28.3
美東地域	4,614	1,964	42.6	2,905	1,313	45.2	-651	-33.1

## 徒歩圏内の人口分布状況(2020年)



## 徒歩圏内の人口分布状況(2040年)



# 4) 災害に対する安全性 ①洪水

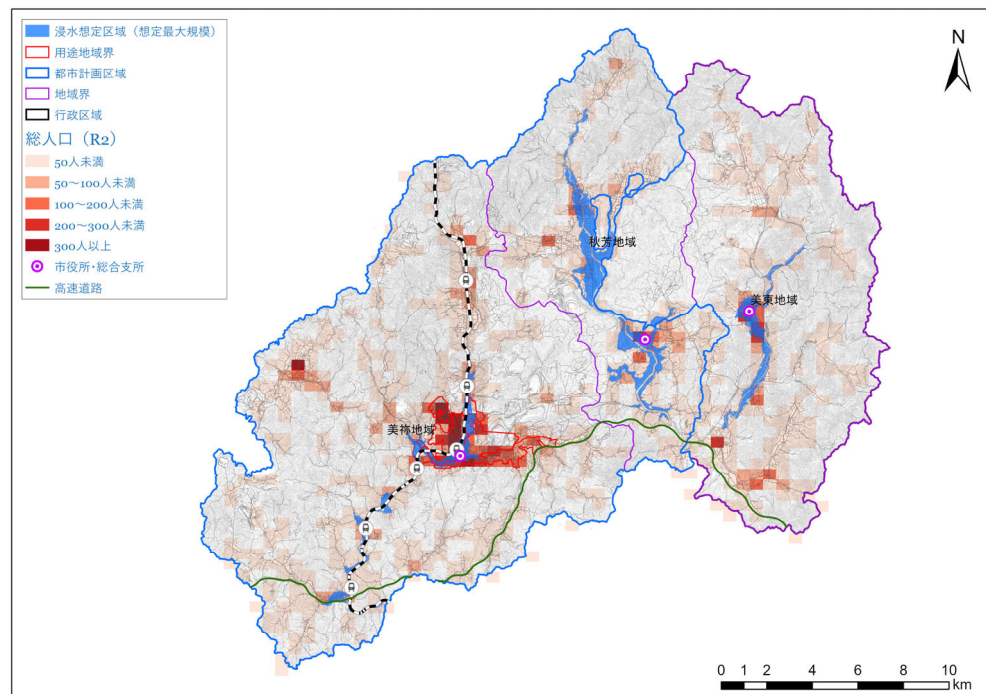
- 全ての地域で市役所、総合支所が浸水想定区域に含まれている。
- 地域別では、3地域の中で秋芳地域のカバー率が最も高く、2040年においてもカバー率が上昇しており、被災リスクの拡大が懸念される。

## ■浸水想定区域に居住する人口と割合

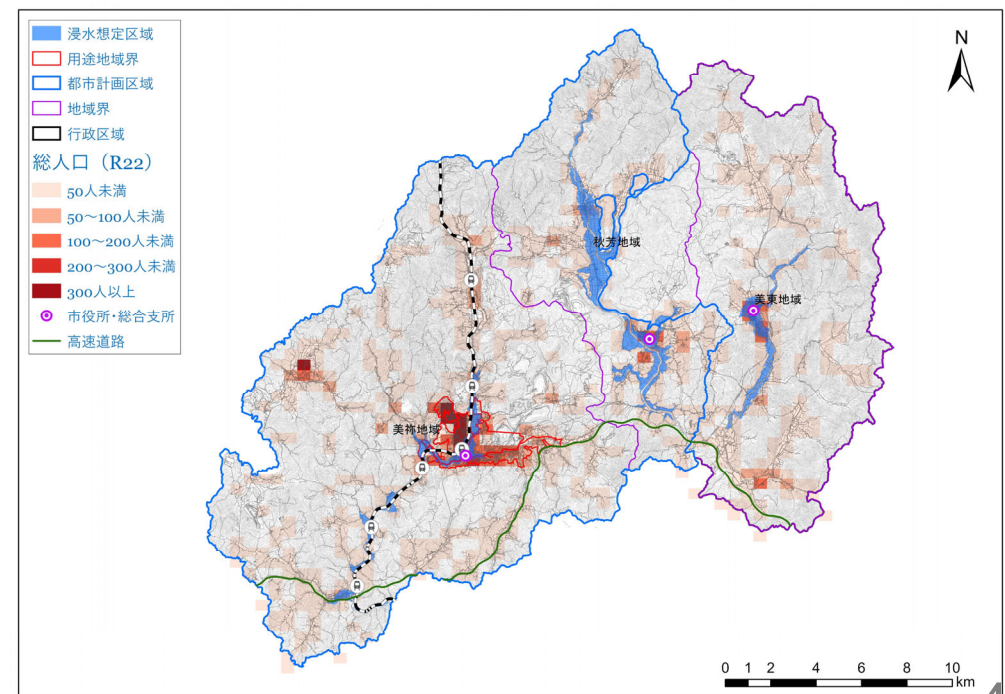
(単位：人、%)

	2020年			2040年			徒歩圏人口増減	
	総人口	区域内人口	カバー率	総人口	区域内人口	カバー率	実数	増減率
浸水想定区域内人口	23,247	3,456	14.9	16,212	2,382	14.7	-1,074	-31.1
美祢地域	14,467	1,579	10.9	10,567	1,082	10.2	-497	-31.5
秋芳地域	4,166	1,067	25.6	2,740	743	27.1	-324	-30.4
美東地域	4,614	810	17.6	2,905	557	19.2	-253	-31.2

## ■浸水想定区域と人口分布状況(2020年)



## ■浸水想定区域と人口分布状況(2040年)



# 4) 災害に対する安全性 ②土砂災害

- 土砂災害警戒区域は市全域に分布しており、用途地域内にも指定されている。
- 地域別にみると、2040年のカバー率は美東地域が最も高く15.4%、美祢地域11.3%、秋芳地域8.3%である。
- 土砂災害特別警戒区域内のカバー率は、美東地域で上昇しており、被災リスクの拡大が懸念される。

■土砂災害警戒区域に居住する人口と割合

(単位：人、%)

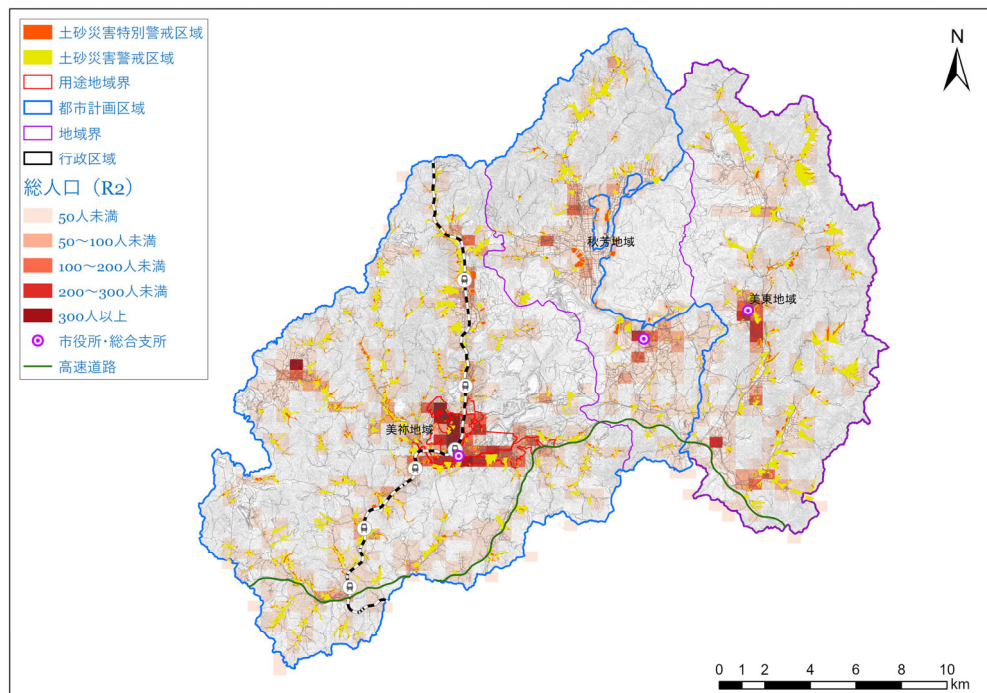
	2020年			2040年			徒歩圏人口増減	
	総人口	区域内人口	カバー率	総人口	区域内人口	カバー率	実数	増減率
土砂災害警戒区域人口	23,247	2,927	12.6	16,212	1,872	11.5	-1,055	-36.0
美祢地域	14,467	1,828	12.6	10,567	1,199	11.3	-629	-34.4
秋芳地域	4,166	374	9.0	2,740	227	8.3	-147	-39.3
美東地域	4,614	725	15.7	2,905	446	15.4	-279	-38.5

■土砂災害特別警戒区域に居住する人口と割合

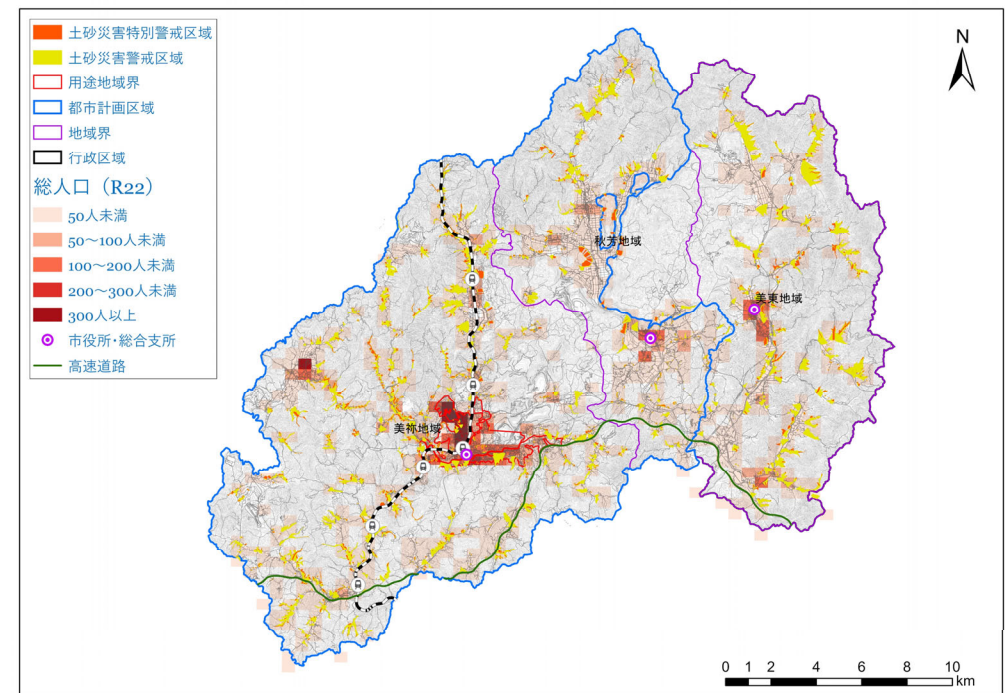
(単位：人、%)

	2020年			2040年			徒歩圏人口増減	
	総人口	区域内人口	カバー率	総人口	区域内人口	カバー率	実数	増減率
土砂災害特別警戒区域人口	23,247	474	2.0	16,212	323	2.0	-151	-31.9
美祢地域	14,467	304	2.1	10,567	205	1.9	-99	-32.6
秋芳地域	4,166	76	1.8	2,740	48	1.8	-28	-36.8
美東地域	4,614	94	2.0	2,905	70	2.4	-24	-25.5

■土砂災害(特別)警戒区域と人口分布状況(2020年)



■土砂災害(特別)警戒区域と人口分布状況(2040年)



# 4) 災害に対する安全性 ③大規模盛土造成地

- 地域別では、2020年の美祢地域のカバー率が最も高く、4.3%である。
- 美祢地域では、2040年にかけてカバー率が上昇し、被災リスクの拡大が懸念される。

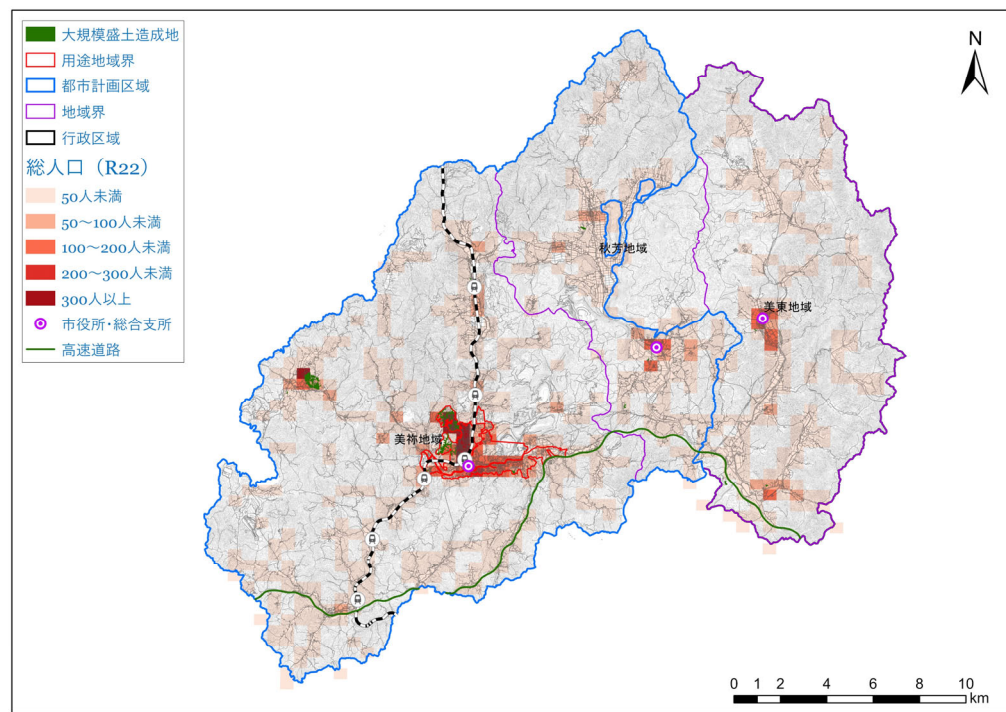
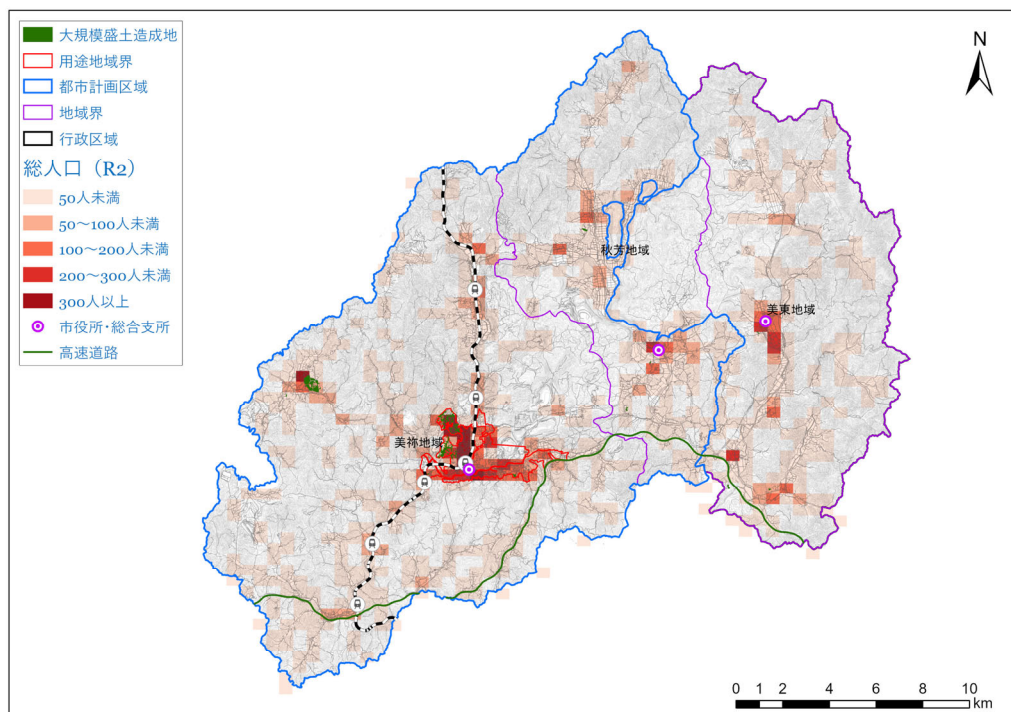
## 大規模盛土造成地に居住する人口と割合

(単位：人、%)

	2020年			2040年			徒歩圏人口増減	
	総人口	区域内人口	カバー率	総人口	区域内人口	カバー率	実数	増減率
大規模盛土造成地人口	23,247	632	2.7	16,212	594	3.7	-38	-6.0
美祢地域	14,467	627	4.3	10,567	589	5.6	-38	-6.1
秋芳地域	4,166	3	0.1	2,740	3	0.1	0	0.0
美東地域	4,614	2	0.0	2,905	2	0.1	0	0.0

## 大規模盛土造成地と人口分布状況(2015年)

## 大規模盛土造成地と人口分布状況(2040年)



### ③ 解決すべき課題の抽出

	都市の現状と将来見通しの分析	課題	
都市の現状分析	人口動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少、少子高齢社会の進展(山口県平均以上に進行)</li> <li>都市計画区域内外、用途地域内外で人口減少</li> <li>美祢地域、秋芳地域、美東地域は人口減少、特に秋芳地域は急速な人口減少</li> <li>美祢地域、秋芳地域、美東地域は高齢化率が約40%超、特に秋芳地域は高齢化率が約50%超</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>急激な高齢化率上昇への対応</li> <li>人口密度の低下への対応</li> </ul>
	土地利用動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画区域は行政区域の約69%</li> <li>都市計画区域内における自然的土地利用は約90%</li> <li>用途地域内の都市的土地利用は約66%</li> <li>用途地域内を中心に農地転用や新築、開発が実施されている</li> <li>空家は、美祢地域内に多く、用途地域内にも多数分布</li> <li>低未利用地は、都市計画区域内に広く分布、美祢地域の用途地域縁辺部にも多数分布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>用途地域内を中心とした空家や低未利用地の利活用</li> <li>都市計画区域外において居住や都市機能の集積が見られるエリアへの対応</li> </ul>
	交通動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用交通手段は自動車の割合が最も高く約84%(山口県平均約71%)</li> <li>2013年～2018年にかけて鉄道駅別乗降客数は厚保、四郎ヶ原、南大嶺、美祢、重安、於福の6駅で微減</li> <li>2013年～2015年にかけて路線バス別乗降客数は中国ジェイアールバス、船木鉄道、あんもないと号で増加。宇部市交通局、防長交通、ブルーライン交通、サンデン交通で減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者や生徒・学生等若者の移動手段確保</li> <li>公共交通機関の利用促進</li> <li>公共交通機関の利便性向上</li> </ul>
	経済動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>2010年～2020年にかけて就業者数は減少</li> <li>主力産業は、農林漁業、製造業、卸売業・小売業、医療・福祉業であり、製造業の従業者数が最も多い</li> <li>観光客数は概ね横ばいにあったものの、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特色ある産業の維持</li> <li>地域資源を生かした観光産業の回復</li> </ul>



### ③ 解決すべき課題の抽出

		都市の現状と将来見通しの分析	課題
都市の現状分析	財政動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自主財源が約30%、歳出では義務的経費が約50%近くを占めており、財政は硬直化</li> <li>• 新型コロナウイルス感染症の対応に伴う国及び本市の補正及び緊急対応策を講じたことにより、歳入・歳出ともに増加</li> <li>• 1981年以前の旧耐震基準の施設が全体の34.9%と老朽化が進行した施設が多く存在、今後大規模改修や建替が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 公共施設の集約、複合化、長寿命化の推進</li> </ul>
	地価動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 平均地価は美祢地域、秋芳地域、美東地域ともに下落</li> <li>• 秋芳総合支所周辺で最も下落</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 都市拠点におけるにぎわいの創出</li> <li>• 地域拠点の人口減少抑制による地価下落の抑制</li> </ul>
	災害動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 都市計画区域内に災害リスクの高い地域が分布</li> <li>• 美祢地域、秋芳地域、美東地域の市街地を中心として、洪水浸水想定区域が分布</li> <li>• 市全域に土砂災害に関する区域が分布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 災害リスクの高い地域における災害対策の推進</li> <li>• 災害リスクの高い地域周辺の居住者を安全なエリアに居住を誘導</li> </ul>
	都市施設動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2017年の整備進捗率は都市計画道路約50%、都市計画公園100%、公共下水道は約87%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 都市施設の整備進捗率の向上</li> </ul>

# ③ 解決すべき課題の抽出

	都市の現状と将来見通しの分析	課題	
将来見通し(2040年)の分析	人口の見通しに関する分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>美祢地域の用途地域内に人口が集積。秋芳地域、美東地域など用途地域の指定がない地域は各総合支所周辺に人口が集積</li> <li>2040年時点では、市全体で人口が減少し、特に用途地域内の人口減少が顕著</li> <li>全ての年代で人口は減少傾向にあるが、老年人口は美祢地域などの一部地域で増加</li> <li>2040年の高齢化率は47.5%で、少子高齢化がさらに進行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>急激な高齢化率上昇への対応</li> <li>人口密度の低下への対応</li> </ul>
	生活サービス施設の利便性・持続可能性に関する分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年から2040年にかけて、全ての生活サービス施設において、徒歩圏人口が減少</li> <li>全ての施設で、徒歩圏カバー率は50%未満であり、利便性の低いエリアの居住者が半数以上いる状況が続くことが懸念</li> <li>福祉施設、子育て施設、医療施設は、地域間のカバー率にばらつきがあり、地域間の差が顕著。特に秋芳地域は全体的にカバー率が低い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の徒歩圏人口及びカバー率を高めるための適切な施設の誘導</li> <li>徒歩圏外も含むすべての利用者のためのアクセス性の維持・向上</li> </ul>
	公共交通の利便性・持続可能性に関する分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>美祢地域では2040年にかけて、公共交通の徒歩圏人口とカバー率が減少</li> <li>秋芳地域、美東地域においては、カバー率は上昇するものの50%未満であり、利便性の低いエリアの居住者が半数以上いる状況が続くことが懸念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通の利便性向上</li> <li>公共交通機関の利用促進</li> </ul>
	災害の安全性に関する分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>浸水想定区域が美祢地域の用途地域内や秋芳地域、美東地域の支所周辺など人口が集積するエリアで指定されており、被災リスクや災害に対する安全性低下が懸念</li> <li>土砂災害警戒区域の徒歩圏人口カバー率は、美東地域15.4%、美祢地域11.3%であり被災リスクや安全性低下が懸念</li> <li>大規模盛土造成地は、高齢者の増加が予測される美祢地域の来福台地区周辺に見られ安全性に懸念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害リスクの高い地域における災害対策の推進</li> <li>災害リスクの高い地域周辺の居住者の安全なエリアへの居住の誘導</li> <li>高齢化の進行により弱体化するコミュニティの再興</li> </ul>

## ③解決すべき課題の抽出

### ■課題の抽出

#### 人口密度の維持

- 都市拠点及び地域拠点の形成
- 生活サービス施設の維持に向けた人口密度の維持

#### まちのにぎわい・魅力向上

- 増加する空家、低未利用地の利活用推進
- 公共施設の統廃合や複合化による効果的な再配置
- 都市機能の維持・誘導による都市拠点、地域拠点の拠点性向上
- 地域資源を生かした観光産業の回復

#### 公共交通ネットワークの構築

- 都市拠点と地域拠点・生活拠点、地域拠点同士を結ぶネットワークの構築
- 公共交通機関の利便性向上による利用の促進

#### 災害に対する安全性確保

- 災害リスクの高い地域における災害対策の推進
- 災害リスクの高い地域周辺の居住者を安全なエリアに居住を誘導
- 高齢化の進行により弱体化するコミュニティの再興

# (4) まちづくりの方針（ターゲット）の検討

## ■まちづくりの理念

市民が「夢・希望・誇り」をもって暮らす  
住みたい・住み続けたいまち 交流拠点都市 美祢市

## ■まちづくりの目標

みんなが元気にかがやき つどえる いつまでも住み続けられるまちづくり  
～コンパクトなまち～（仮称）

## ■基本的な方向性

### 1. 育(はぐくむ)

～市民の快適で生きがいのある生活を守り、市民と本市を訪れる人や市民同士の交流を促進するまち～

- ・店舗や飲食、公共施設等の活動の場や日常的な居場所が一体的に利用しやすい場所にあるとともに、自然を感じてやすらげる環境や家族・友人等いつでもつどい憩える環境が身近にある、幅広い世代が暮らしやすいまちを目指す。



中心商業・業務地

### 2. 繋(つなぐ)

～市民と本市を訪れる人が、地域内及び地域間を便利に安心して移動できるまち～

- ・徒歩または公共交通機関を利用することで、自家用車に過度に依存せず一定の生活サービスを享受でき、市民や来街者が不自由なく移動できるとともに、各地域内を歩いて安全に回遊できるまちを目指す。



秋吉バス停

### 3. 備(そなえる)

～本市に暮らす人たちが相互に協力し、安全に安心して住み続けられるまち～

- ・災害リスクの低い地域や、災害リスクが危惧されても発災時の避難場所や避難体制が確保できている地域に、安全に安心して暮らすことができ、市民同士が共助の心構えで柔軟に対応できる、災害に強いまちを目指す。



指定緊急避難場所

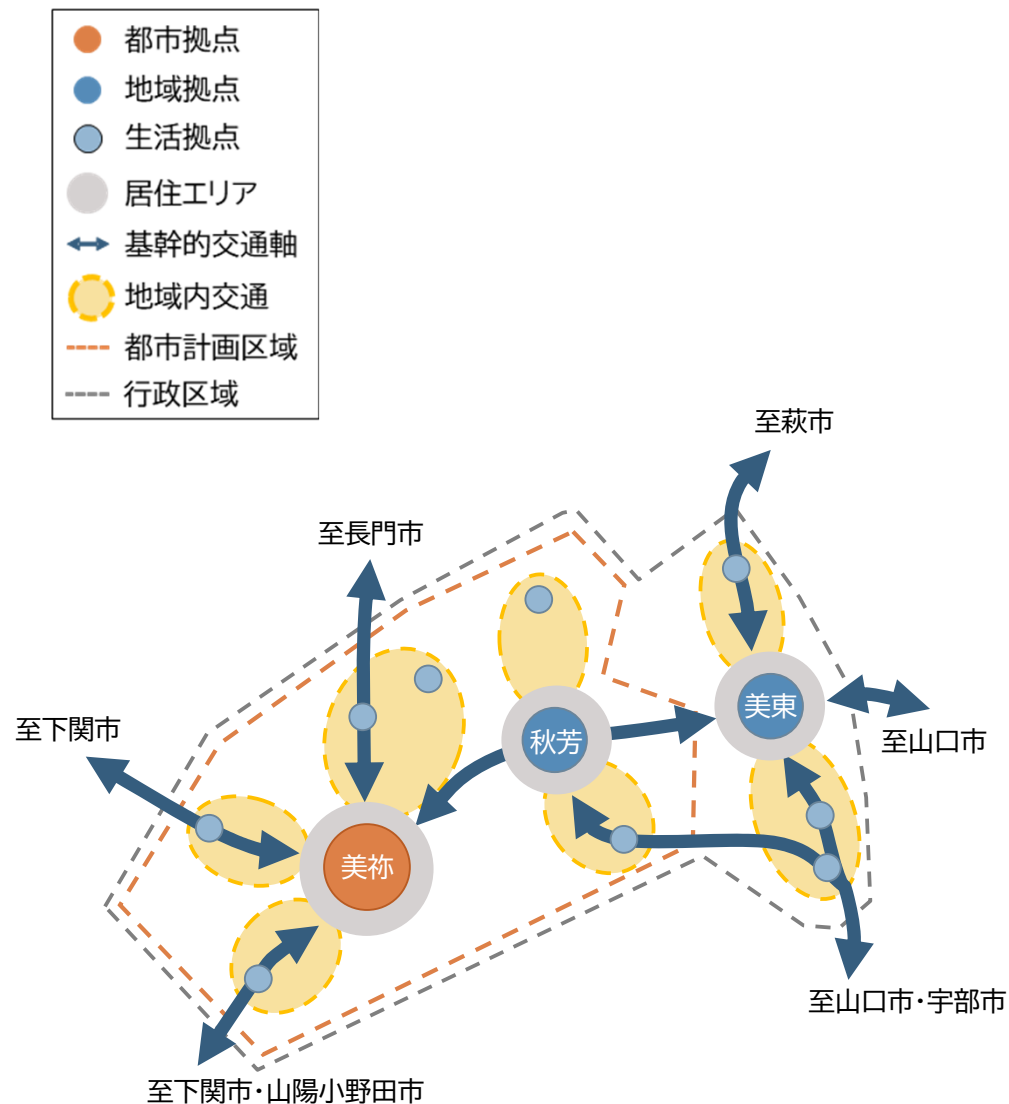
# (5) 目指すべき都市の骨格構造の検討

目指すべき将来像:コンパクトなまち

## ■拠点と軸の形成方針

拠点・軸		機能
拠点	都市拠点	本市のまちの中心となる生活サービス提供基地の役割を担う拠点として、商業、行政等の中枢的な機能が集積し、公共交通等の利便性に優れている、JR美祢駅から市役所周辺を位置付ける。 公共交通の結節点としての機能、行政、文化・交流、商業・業務、サービス、医療・福祉機能等、高次の都市機能の集積を図る。
	地域拠点	地域コミュニティを醸成しながら、拠点間をつなぎ循環を生むハブの役割を担う拠点として、公共施設や店舗、病院等の生活サービスが集積し地域の日常生活と地域活動を支えている、秋芳、美東の各地域の総合支所周辺を位置付ける。 交流人口の受け入れ、産業の振興、健康の増進及び日常生活に必要な都市機能の集積を図る。
	生活拠点	田園集落地において、農林業に携わる市民等の生活の場を担う拠点として、地域の集会所である公民館等の周辺地域を位置付ける。 生活環境、地域の活力・コミュニティの維持を図る。
軸	基幹的交通軸	広域連携を支える役割を担う軸として、本市西側から北側を結ぶJR美祢線、都市拠点と地域拠点を結ぶ路線バス、市内と市外を結ぶ路線バス等を位置付ける。 本市の都市拠点、地域拠点と隣接市町をつなぐ交流・物流の強化を図る。
	地域内交通	日常生活に欠かせない移動を支える役割を担う軸として、生活拠点と都市拠点、生活拠点と地域拠点をつなぐバス路線等を位置付ける。 地域間の移動を伴う日常生活における利便性・アクセス性の向上を図る。

## ■将来都市構造図



# (6) 課題解決のために必要な施策・誘導方針 (ストーリー) の検討

## ■誘導方針1

やすらぎと活力に満ちた地域への愛着を育むまちづくり

- 美祢地域では高次の都市機能、秋芳地域、美東地域では交流、産業、健康、日常生活を支える都市機能を誘導することにより、3地域の特性を生かしつつ連携を強化し、生活利便性の維持・向上を図る。
- 空家や低未利用地の有効活用を促進することにより、市街地の低密度化を抑制しつつ、良好な住環境の形成を図る。
- 公共施設の再編等や公共交通ネットワークの拠点施設整備、豊かな自然と触れ合える環境の整備等により、訪れたい居心地の良い空間を形成することで、にぎわい創出を図る。

## ■誘導方針2

くらしと交流を支える持続可能な交通ネットワークの構築

- 路線バス以外の交通モードも組み合わせた柔軟な公共交通ネットワークを構築することにより、公共交通の利便性を高め、各地域内で不足する生活サービスを他の拠点で補完する環境の整備を図る。
- 美祢地域、秋芳地域、美東地域間のつながりの強化に向けて、交通結節点の機能向上等により、市民や来街者の交流を促進する交通ネットワークの構築を図る。
- 快適な歩行空間の整備等により、安全・安心に歩いて楽しめるまちなかの形成を図る。

## ■誘導方針3

力を合わせて災害に備えるまちづくり

- 災害リスクの低いエリアへの住居の移転を促進し、安全な住環境を実現する。
- 災害に強い都市基盤を整備し、安心して暮らせるまちづくりを推進する。
- 都市拠点及び地域拠点周辺の人口集積を維持することにより、災害発生時の共助に資する地域コミュニティ機能を強化する。

# (参考) 美祢市立地適正化計画の基本的な方針

## 解決すべき課題

### 人口密度の維持

- 都市拠点及び地域拠点の形成
- 生活サービス施設の維持に向けた人口密度の維持

### まちなぎわい・魅力向上

- 増加する空家、低未利用地の利活用推進
- 公共施設の統廃合や複合化による効果的な再配置
- 都市機能の維持・誘導による都市拠点、地域拠点の拠点性の向上
- 地域資源を生かした観光産業の回復

### 公共交通ネットワークの構築

- 都市拠点と地域拠点・生活拠点、地域拠点同士を結ぶネットワークの構築
- 公共交通機関の利便性向上による利用の促進

### 災害に対する安全性確保

- 災害リスクの高い地域における災害対策の推進
- 災害リスクの高い地域周辺の居住者を安全なエリアに居住を誘導
- 高齢化の進行により弱体化するコミュニティの再興

## まちづくりの方針(ターゲット)

市民が「夢・希望・誇り」をもって暮らす  
住みたい・住み続けたいまち 交流拠点都市 美祢市

みんなが元気がかがやき つどえる いつまでも  
住み続けられるまちづくり～コンパクトなまち～ (仮称)

- 【育(はぐくむ)】市民の快適で生きがいのある生活を守り、市民と本市を訪れる人や市民同士の交流を促進するまちを目指す。
- 【繋(つなぐ)】市民と本市を訪れる人が、地域内及び地域間を便利に安心して移動できるまちを目指す。
- 【備(そなえる)】本市に暮らす人たちが相互に協力し、安全に安心して住み続けられるまちを目指す。

## 課題解決のために必要な施策・誘導方針(ストーリー)

### やすらぎと活力に満ちた地域への愛着を育むまちづくり

- 美祢地域では高次の都市機能、秋芳地域、美東地域では交流、産業、健康、日常生活を支える都市機能を誘導することにより、3地域の特性を生かしつつ連携を強化し、生活利便性の維持・向上を図る。
- 空家や低未利用地の有効活用を促進することにより、市街地の低密度化を抑制しつつ、良好な住環境の形成を図る。
- 公共施設の再編等や公共交通ネットワークの拠点施設整備、豊かな自然と触れ合える環境の整備等により、訪れたい居心地の良い空間を形成することで、にぎわい創出を図る。

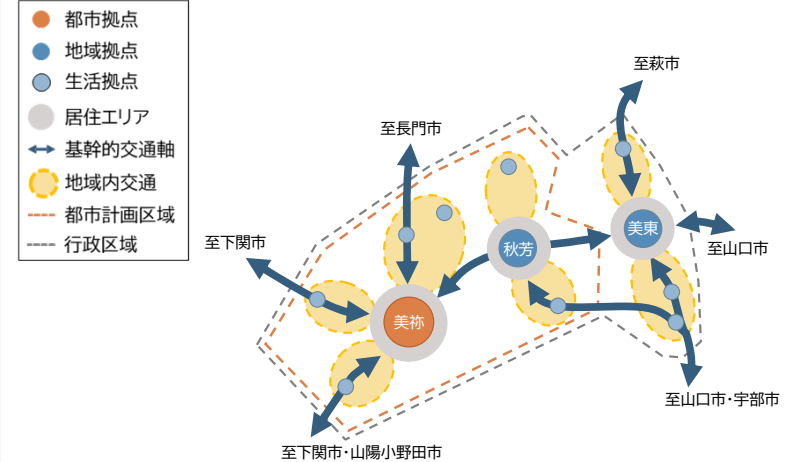
### くらしと交流を支える持続可能な交通ネットワークの構築

- 路線バス以外の交通モードも組み合わせた柔軟な公共交通ネットワークを構築することにより、公共交通の利便性を高め、各地域内で不足する生活サービスを他の拠点で補完する環境の整備を図る。
- 美祢地域、秋芳地域、美東地域間のつながりの強化に向けて、交通結節点の機能向上等により、市民や来街者の交流を促進する交通ネットワークの構築を図る。
- 快適な歩行空間の整備等により、安全・安心に歩いて楽しめるまちなかの形成を図る。

### 力を合わせて災害に備えるまちづくり

- 災害リスクの低いエリアへの住居の移転を促進し、安全な住環境を実現する。
- 災害に強い都市基盤を整備し、安心して暮らせるまちづくりを推進する。
- 都市拠点及び地域拠点周辺の人口集積を維持することにより、災害発生時の共助に資する地域コミュニティ機能を強化する。

## 将来都市構造図



拠点・軸		機能
拠点	都市拠点	本市のまちなかの中心となる生活サービス提供基地の役割を担う拠点として、商業、行政等の中核的な機能が集積し、公共交通等の利便性に優れている、JR美祢駅から市役所周辺を位置付ける。 公共交通の結節点としての機能、行政、文化・交流、商業・業務、サービス、医療・福祉機能等、高次の都市機能の集積を図る。
	地域拠点	地域コミュニティを醸成しながら、拠点間をつなぎ循環を生むハブの役割を担う拠点として、公共施設や店舗、病院等の生活サービスが集積し地域の日常生活と地域活動を支えている、秋芳、美東の各地域の総合支所周辺を位置付ける。 交流人口の受け入れ、産業の振興、健康の増進及び日常生活に必要な都市機能の集積を図る。
	生活拠点	田園集落地において、農林業に携わる市民等の生活の場を担う拠点として、公民館等の周辺地域を位置付ける。 生活環境、地域の活力・コミュニティの維持を図る。
軸	基幹的交通軸	広域連携を支える役割を担う軸として、本市西側から北側を結ぶJR美祢線、都市拠点と地域拠点を結ぶ路線バス、市内と市外を結ぶ路線バス等を位置付ける。 本市の都市拠点、地域拠点と隣接市町をつなぐ交流・物流の強化を図る。
	地域内交通	日常生活に欠かせない移動を支える役割を担う軸として、生活拠点と都市拠点、生活拠点と地域拠点をつなぐバス路線等を位置付ける。 地域間の移動を伴う日常生活における利便性・アクセシビリティの向上を図る。